SONY®

4-539-038-**01**(1)

デジタル
スチルカメラ

取扱説明書

ヘルプガイドについて

Web上のマニュアル「ヘルプガイド」もご覧ください。パソコンやスマートフォンでご覧いただけます。

http://rd1.sony.net/help/dsc/1410/ja/

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Cyber-shot

DSC-RX100M3

⚠警告 安全のために

→ 113～117ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

**変な音・
においがしたら
煙が出たら**

➡
❶ 電源を切る
❷ 電池をはずす
❸ 相談窓口に連絡する

裏表紙に**相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂のおそれがあります。
❷ 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。
❸ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。
❹ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

お使いになる前に必ずお読みください

メニューの表示言語について

本機では、日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

メモリーカードのバックアップについて

アクセスランプ点灯中に電源を切ったり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりすると、メモリーカードのデータが壊れることがあります。データ保護のため必ずバックアップをお取りください。

本機搭載の機能について

- 本機は1080 60i対応機です。
- 本機は、1080 60pの動画に対応しています。1080 60pとは、従来の標準的な記録モードがインターレースで記録するのとは異なり、プログレッシブで記録します。これにより解像度が増え、滑らかでよりリアルな映像を撮影することができます。1080 60pの動画は対応機器以外では再生できません。

管理ファイル作成について

管理ファイルが作成されていないメモリーカードを本機に挿入し電源を入れると、メモリーカードの一部の容量を使って自動的に管理ファイルを作成するため、次の操作まで時間がかかることがあります。

管理ファイルエラーが発生したときは、PlayMemories Home™ですべての画像をパソコンに取り込んでから、本機でメモリーカードをフォーマットしてください。

録画・再生に際してのご注意

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。
  フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化（フラグメンテーション）して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、［フォーマット］（97ページ）を行ってください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「使用上のご注意」もご覧ください（110ページ）。
- 本機をぬらさないでください。水滴が内部に入り込むと、故障の原因になるだけでなく、修理できなくなることもあります。
- 日光および強い光に向けて本機を使用しないでください。故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。

- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(110ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、記録メディアが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。フラッシュ表面の汚れが発光による熱で発煙したり、焦げる場合があります。汚れ・ゴミがある場合は柔らかい布などで清掃してください。

ZEISSレンズ搭載

本機はZEISSレンズを搭載し、シャープで、コントラストが良い画像を作り出すことを可能にしました。
本機のレンズは、ドイツカール ツァイスの品質基準に基づき、カール ツァイスによって認定された品質保証システムにより生産されています。

モニターおよびファインダー、レンズについてのご注意

- モニターやファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- バッテリー残量がなくなると、レンズが出たまま動きが止まることがあります。充電されたバッテリーを取り付けて、再度電源を入れてください。
- モニターやファインダー部を持って本機を持ち運ばないでください。
- レンズ駆動時に物や指を引き込まれないように注意してください。
- ファインダーを下げるときに指をはさまないように注意してください。
- 接眼部を引き出した状態で無理にファインダーを押し込まないでください。
- 上がったファインダー部に水滴や砂埃が付着すると故障の原因になります。

ファインダーでの撮影について

- ファインダーを使用中、目の疲労、疲れ、気分が悪くなる・乗り物酔いに似た症状が出ることがあります。ファインダーを使用するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。
  必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。不快な症状が出たときは、回復するまでファインダーの使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。
- 高解像度、高コントラストの有機ELファインダーを搭載しています。視認性の良いファインダーを実現するため、様々な要素のバランスを重視した設計を行っています。
  - ファインダーの周辺部分の画像が少し歪んで見える場合がありますが、故障ではありません。構図の隅々まで確認して撮影したいときは、モニターも使用してください。
  - ファインダーをのぞきながらパンしたり、視線を上下左右に動かすと、ファインダーの画像が歪んだり、色合いが変わって見える場合があります。これはレンズや表示デバイスの特性によるもので、故障ではありません。なるべくファインダーの中央付近を見るようにして撮影してください。

フラッシュについて

- フラッシュ部を持ったり、無理な力を加えないでください。
- 上がったフラッシュ部に水滴や砂埃が入ると故障の原因になります。
- フラッシュ部を下げるときに手を挟まないように注意してください。

ソニー製純正アクセサリーをお使いください

純正品以外のアクセサリーをお使いになると、故障の原因になることがあります。また国や地域によって発売されていない場合があります。

本機の温度について

本機を連続して使用した場合、本体やバッテリーの温度が高くなりますが、故障ではありません。

温度保護機能について

本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために自動的に電源が切れたり、動画撮影ができなくなることがあります。電源が切れる前や撮影ができなくなった場合は、モニターにメッセージが表示されます。このような場合、本機やバッテリーの温度が充分下がるまで電源を切ったままお待ちください。充分に温度が下がらない状態で電源を入れると、再び電源が切れたり動画撮影ができなくなることがあります。

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"(DCF)に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は、ともに保証いたしません。

AVCHD動画のパソコンへの取り込みについて

AVCHD動画をパソコンに取り込むときは、ソフトウェアPlayMemories Homeをwww.sony.net/pm/ からインストールして使用してください。

無線に関連する機能(Wi-Fiなど)を一時的に無効にする

無線に関する機能は、[飛行機モード]で一時的に無効にできます。

認証マークの表示について

本機が対応している認証マークの一部は、本機の画面上で確認することができます。

MENUボタン → (セットアップ) 6 → [認証マーク表示]を選択してください。

本機の故障などの問題により表示できない場合は、相談窓口にご相談下さい。

本機で撮影した動画を、他機で再生する際のご注意

- 本機で記録した動画は本機以外の機器では正常に再生できない場合があります。また他機で記録した動画は本機で再生できない場合があります。
- ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。
  DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質(HD)のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。
- 1080 60pの動画は対応機器以外では再生できません。

機器認定について

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本製品を分解/改造すること

周波数について

本製品は2.4GHz帯で使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項

本製品の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局（免許を要する無線局）等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1.本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2.万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。
3.その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS / OF2

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDSSS/OFDM 変調方式を採用し、与干渉距離は20m以下です。

ワイヤレスLANに関するご注意

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

ワイヤレスLAN機能の使用地域について

ワイヤレスLAN機能は、日本国内でのみ使用できます。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

目次

やりたいことから探す

準備する

基本操作を確認する

静止画を撮る

動画を撮る

見る

カメラの設定を変える

パソコンで見る

カメラに機能を追加する

機能を一覧で確認する

その他

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能の詳細については、別紙の「Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ」またはヘルプガイド(11ページ)をご覧ください。

「ヘルプガイド」について

「ヘルプガイド」はオンラインで見るマニュアルです。
パソコンやスマートフォンでご覧ください。
さらに詳しい使いかたをご覧いただけます。

URL：
http://rd1.sony.net/help/dsc/1410/ja/

やりたいことから探す

カメラまかせできれいに撮りたい

動画を撮りたい

薄暗い場所でもブレずに撮りたい

動いている被写体を撮りたい

背景をぼかして撮りたい

逆光でもきれいに撮りたい

被写体に近づいて撮りたい

好みの設定で思いどおりに撮りたい

日付を設定したい/撮影日を入れたい

パソコンに画像を取り込んで観賞したい

動画のディスクを作成したい

カメラにアプリケーションを追加したい

Wi-Fi機能を使いたい

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能の詳細については、別紙の「Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ」またはヘルプガイド（11ページ）をご覧ください。

本体と付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内の数字は個数です。

- カメラ（1）
- リチャージャブルバッテリーパックNP-BX1（1）

- マイクロUSBケーブル（1）

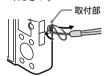
- ACアダプター AC-UB10C/UB10D（1）

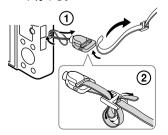
- リストストラップ（1）

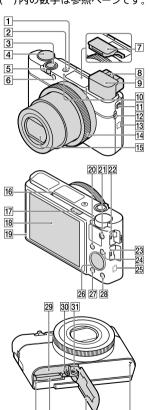
- ストラップアダプター（2）

- 取扱説明書(本書)（1）
- 保証書（1）
- Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ（1）

リストストラップを使う

落下防止のため、リストストラップを取り付け、手を通してご使用ください。

ショルダーストラップ(別売)を使う

① ストラップアダプターをカメラのストラップ取り付け部(2箇所)にそれぞれ取り付ける。
② ストラップアダプターにショルダーストラップ(別売)を取り付ける。

各部の名前を確認する

（　）内の数字は参照ページです。

1 ON/OFF（電源）ボタン（23）

2 電源/充電ランプ（19）

3 シャッターボタン（29）

4 モードダイヤル（44）

5 撮影時：W/T（ズーム）レバー（29、34）
再生時：（一覧表示）レバー（79）／
再生ズームレバー（77）

6 セルフタイマーランプ（66）／AF補助光（89）

7 フラッシュ（36）
- フラッシュの近くに指を置かないでください。
- フラッシュを発光させるときは、（フラッシュポップアップ）スイッチをスライドしてフラッシュ部を上げてください。使わないときは手で押して元に戻してください。

8 視度調整レバー（32）
- ファインダー内の画像がはっきり見えるように視度調整レバーを動かしてください。

9 ファインダー（32）

- ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に切り替わり、目を離すとモニター表示に戻ります。

10 マイク

11 ファインダーポップアップスイッチ（32）

12 ストラップ取り付け部（14）

13 （Nマーク）（13）

- NFC機能搭載のスマートフォンと本機を無線接続するときにタッチします。
- NFC(Near Field Communication)は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

14 コントロールリング（25）

15 レンズ

16 アイセンサー

17 （フラッシュポップアップ）スイッチ

18 モニター（67）

19 明るさセンサー

20 撮影時：Fnボタン（26、70）
再生時：（スマートフォン転送）ボタン（13）

21 MOVIE（動画）ボタン（73）

22 マルチ/マイクロUSB端子（19、83）

- マイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

23 HDMIマイクロ端子（78）

24 MENUボタン（27）

25 Wi-Fi受信部（内部）

26 コントロールホイール（25）

27 ▶（再生）ボタン（77）

28 **C**/（カスタム/削除）ボタン（28、80）

29 バッテリー挿入口（17）

30 バッテリー取りはずしつまみ（17）

31 三脚用ネジ穴

- ネジの長さが5.5mm未満の三脚を使う。5.5mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

32 アクセスランプ（18）

33 メモリーカード挿入口（17）

34 バッテリー/メモリーカードカバー（17、17）

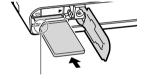
35 スピーカー

バッテリーとメモリーカード(別売)を入れる

1 バッテリーカバーを開けてバッテリーを入れる。

- バッテリーの向きを確認し、バッテリー取りはずしつまみを押しながら入れます。

2 メモリーカード(別売)を入れる。

- 切り欠き部をイラストの向きにして入れます。
- 本機で使用できるメモリーカードについては、103ページをご覧ください。

切り欠きの向きに注意する

3 カバーを閉じる。

メモリーカードを取り出す

アクセスランプが消えていることを確認して、メモリーカードを押す。

バッテリーを取り出す

バッテリー取りはずしつまみをずらす。
バッテリーが押し出されるので、落下しないように注意する。

ご注意

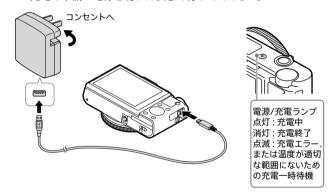
- アクセスランプ点灯中は、メモリーカードやバッテリーを取り出さないでください。データやメモリーカードが壊れることがあります。

バッテリー充電と使用可能枚数・時間

初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してください。
充電したバッテリーは、使わなくても少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前に充電してください。

1 バッテリーを入れた本機とACアダプター（付属）をマイクロUSBケーブル（付属）でつなぎ、ACアダプターをコンセントに差し込む。

- 充電は本機の電源を切った状態で行ってください。

充電時間の目安（満充電）

約230分で充電できます。

- 残量があるバッテリーも充電できます。
- バッテリー（付属）を使い切ってから、温度25 ℃の環境下で充電したときの時間です。使用状況や環境によっては、長くかかります。
- 充電の状態を知るには、マイクロUSBケーブルを抜いた状態でモニターに表示される ▯ （バッテリー容量）をご確認ください。

ご注意

- 電源/充電ランプが点滅し充電が完了しなかった場合は、一度バッテリーを取りはずし、再度装着してください。
- バッテリーの充電は周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で行ってください。
- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 充電が終わったら、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 必ずソニー製純正のバッテリー、付属のマイクロUSBケーブル、ACアダプターをお使いください。

パソコンに接続して充電する

マイクロUSBケーブルを使って、パソコンからの充電も可能です。
本機の電源を切った状態でつないでください。

パソコンのUSB端子へ

- 電源を入れた状態で本機とパソコンをつなぐと電力が供給され、バッテリーの消費を心配せずに画像をパソコンに取り込むことができます。

ご注意

- パソコンから充電するときは、以下の点にもご注意ください。
  – 電源を接続していないノートパソコンと本機を接続した場合、ノートパソコンの電池が消耗していきます。長時間充電しないでください。
  – 本機をUSB接続したままパソコンの起動、再起動、スリープモードからの復帰、終了操作を行わないでください。本機が正常に動作しなくなることがあります。これらの操作は、パソコンから本機を取りはずしてから行ってください。
  – 自作のパソコンや改造したパソコンでの充電は保証できません。

バッテリーの使用時間と撮影/再生枚数

		使用時間	枚数
静止画撮影	モニター	約160分	約320枚
	ファインダー	約115分	約230枚
実動画撮影	モニター	約50分	–
	ファインダー	約50分	–
連続動画撮影	モニター	約85分	–
	ファインダー	約90分	–
静止画再生		約215分	約4300枚

ご注意

- 撮影枚数は満充電されたバッテリーを使用した場合の目安です。撮影枚数は使用方法により減少する場合があります。
- 撮影枚数は、以下の条件で撮影した場合です。
  – 当社製のメモリースティック PRO デュオ™(Mark2)(別売)を使用
  – 温度25℃の環境
  – [表示画質]:[標準]
- 静止画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。(CIPA : カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association)
  – DISP : [全情報表示]
  – 30秒ごとに1回撮影
  – 1回ごとにズームをW側、T側に交互に最後まで動かす。
  – 2回に一度、フラッシュを発光する。
  – 10回に一度、電源を入/切する。
- 動画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
  – 記録設定 : 60i 17M(FH)
  – 実動画撮影 : 撮影、ズーム、撮影スタンバイ、電源入/切を繰り返した場合の目安。
  – 連続動画撮影 : 連続撮影の制限(29分)により撮影が終了したときは、再度MOVIE(動画)ボタンを押して撮影を続ける。ズームなどその他の操作はしない。
- バッテリー残量が表示されない場合は、DISP(画面表示切換)を押して表示してください(39ページ)。

外部電源で本機を使うには

撮影、再生に対応したACアダプター AC-UD10（別売）を使用すると、撮影、再生時も電力を供給できます。

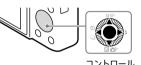
ご注意

- 本機と付属のACアダプターをつないだ状態では、撮影や再生はできません。

日付と時刻を設定する

1 ON/OFF(電源)ボタンを押す。

電源が入る。

2 [実行]が選ばれていることを確認し、コントロールホイール中央の●を押す。

コントロールホイール

3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、中央の●を押す。

4 コントロールホイールの▲/▼を押す、またはホイールを回して設定する項目を選び、中央の●を押す。

5 ▲/▼/◀/▶を押す、またはホイールを回して希望の設定を選び、中央の●を押す。

[日時]を設定する場合、真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

6 手順4、5を繰り返して、すべて設定し、[実行]を選んで中央の●を押す。

日付と時刻を確認する/合わせ直す

はじめて電源を入れたときのみ、自動で日時設定画面が開きます。日時を合わせ直すときは、MENUボタンを押して、(セットアップ) 4 → ［日時設定］を選び、日時設定画面を開いてください。

操作方法を確認する

コントロールホイールの使いかた

- コントロールホイールを回したり上下左右を押したりすると、選択枠を動かすことができます。選んだ項目は中央の●を押すと決定されます。本書ではコントロールホイールの上下左右を押す動作を▲/▼/◀/▶で表現しています。
- ▲にはDISP（画面表示切換）が割り当てられています（39ページ）。
- 撮影時の◀/▶/●ボタンにはお好みの機能を割り当てることができます（72ページ）。
- 再生時に◀/▶を押す、またはホイールを回すことで前/次の画像を表示することができます（77ページ）。

コントロールリングの使いかた

コントロールリング

画面には以下のようにアイコンと機能名が表示されます。

例）

ZOOM ：コントロールリングを回したとき、ZOOM（ズーム）が働きます。

Av：コントロールホイールを回したとき、Av（絞り値）を調整できます。

コントロールリングを回して、撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。よく使う機能を割り当てることもできます（70ページ）。

Fn(ファンクション)ボタンで選ぶ

Fn(ファンクション)ボタンにはよく使う機能を12個まで登録しておくことができ、撮影時に各機能の設定を変更できます。

1 撮影画面でFn(ファンクション)ボタンを押す。

2 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で設定する機能を選ぶ。

- 登録できる機能の一覧と登録方法は70ページをご覧ください。

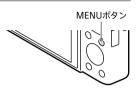
3 コントロールホイールまたはコントロールリングを回して希望の設定を選び、中央の●を押す。

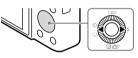
登録できる機能の一覧と、登録方法は70ページをご確認ください。

手順2で、設定する機能を選んでコントロールホイール中央の●を押すと、その項目設定の専用画面になります。操作ガイドに従って設定してください。

MENUボタンで選ぶ

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する設定の変更や、機能の実行を行えます。
設定項目の一覧は88ページをご確認ください。

1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。

2 コントロールホイールを回したり▲/▼/◀/▶を押したりして設定したい項目を選び、中央の●を押す。

画面上部のアイコンを選んで◀/▶を押すと他のMENUへ移動できる。

3 設定値を選択して、中央の●を押して決定する。

カメラ内ガイドを見る

MENU、Fn（ファンクション）の機能や設定に関する説明を表示します。

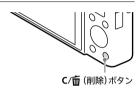
1 MENUボタン、またはFn（ファンクション）ボタンを押す。

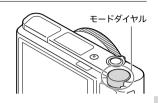
2 コントロールホイールの▲/▼/◀/▶で説明を見たい項目を選ぶ。

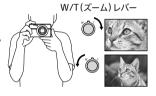
3 C/🗑（削除）ボタンを押す。

手順2で選んだ項目の説明が表示される。

- グレーで表示されている項目を選んでコントロールホイール中央の●を押した場合は、その項目を使用できない理由が表示されます。

C/🗑（削除）ボタン

自動で最適な設定で撮る（オート撮影）

1 モードダイヤルを i📷（おまかせオート）にする。

2 脇を締めて構え、構図を決める。

- W/T（ズーム）レバーをT側へ動かすとズームし、W側へ動かすと戻ります。大きくズームしたい場合は、34ページをご覧ください。
- レンズに指がかからないようにしてください。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと「ピピッ」という音がして●または (●) が点灯する。

- フラッシュは自動ではポップアップしません。
- フラッシュを発光させて撮影するときは、⚡（フラッシュポップアップ）スイッチをスライドしてフラッシュ部を上げてください（36ページ）。

- ピントが合う最短の撮影距離（レンズ先端から被写体まで）はW側で約5 cm、T側で約30 cmです。
- 本機では状況に応じて、自動でマクロ撮影になります。

4 シャッターボタンを深く押し込む。

- 撮影直後に、撮影した画像が表示されます。再生時のDISP設定で表示されます(39ページ)。シャッターボタンを半押しすると画像の表示を解除できます。

状況を自動判別して撮る(おまかせオート/プレミアムおまかせオート)

i(おまかせオート)またはi+(プレミアムおまかせオート)で撮影すると、カメラが自動でシーンを認識して最適な設定で撮影します。動画撮影中もシーンを認識します。

1 被写体にカメラを向ける。

シーン認識マークがモニターに表示される。
(人物)、(赤ちゃん)、(夜景&人物)、(夜景)、(逆光&人物)、(逆光)、(風景)、(マクロ)、(スポットライト)、(低照度)、(三脚)、(歩き)、(動き)、(動き(明るい))、(動き(暗い))

シーン認識マーク

(歩き)は、動画撮影時にMENUボタン → (撮影設定) 6 → [手ブレ補正]が[アクティブ]、または[インテリジェントアクティブ]に設定されているときのみ認識されます。

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、シャッターボタンを深く押し込んで撮影する。

- i+(プレミアムおまかせオート)の場合、自動で連写が行われ、重ね合わせ撮影が行われることがあります。

オート撮影の特徴

プレミアムおまかせオートは、おまかせオートよりもさらに高画質で撮影し、必要に応じて重ね合わせ撮影を行います。
プログラムオートは、ホワイトバランスやISOなど多彩な機能の設定を変えて撮るときに使います。

撮影モード	こんなときに使う
i📷（おまかせオート）	• カメラまかせでシーン認識をして撮影したいとき
i📷+ （プレミアムおまかせオート）	• 暗いシーンや逆光などの失敗しやすいシーンをきれいに撮影したいとき • i📷（おまかせオート）よりも高画質な画像を撮影したいとき
P（プログラムオート）	• 露出（シャッタースピードと絞り）以外の多彩な撮影機能を自分で調整して撮影したいとき

撮影のテクニック

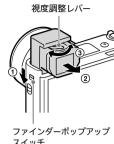
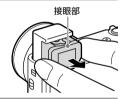
- ［プログラムオート］時にコントロールホイールを回すと、カメラが設定した適正露出のままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変更できます（P* プログラムシフト）。

ご注意

- ［おまかせオート］では、暗いシーンや逆光のシーンなどを美しく撮影できないことがあります。
- ［プレミアムおまかせオート］では、重ね合わせ処理をするため、記録処理に時間がかかります。□+（重ね合わせアイコン）が表示され、シャッター音が複数回聞こえる場合があります。記録される画像は1枚です。
- ［おまかせオート］、［プレミアムおまかせオート］の場合、多くの機能が自動設定となり、自分で変更できません（98ページ）。

ファインダーで撮る

1 ファインダーポップアップスイッチを下げて、ファインダーを上げる。

- 電源が切れているときにポップアップさせると、電源が入ります。
- ファインダーを本体に収納すると、電源が切れます。

2 接眼部の両脇をつまんで、カチッというまでモニター側に引き出す。

3 視度調整レバーを回して、ファインダー内の画像がはっきりと見えるように調整する。

ファインダーを収納するには

接眼部の両脇をつまんでファインダーの中にカチッというまで押し込んでから、ファインダーの上部を押し下げてください。

ご注意

- ファインダーを上げるときに、ファインダー部を押さえないようにしてください。
- 接眼部が奥まで収納されない状態でファインダーを下げると、ファインダーに無理な力がかかり、故障の原因となります。
- ファインダー部をつかんでカメラを持ち運ばないでください。

ファインダーとモニター表示の切り換えについて

ファインダーとモニターの表示は、ファインダーの状態と[FINDER/MONITOR]の設定（92ページ）によって異なります。

[FINDER/MONITOR]の設定	オート	ファインダー
ファインダーが閉じているとき	ON	ON
ファインダーに目を近づけているとき	ON OFF	ON OFF
ファインダーから目を遠ざけているとき	OFF ON	OFF OFF

ズームする

本機の光学ズームでは、画像を劣化させることなく2.9倍までズームします（35mm判換算焦点距離で24mmから70mm）。その他のズーム機能を使用すると、さらに高倍率でズームできます。

---

1 MENUボタン → ✲（カスタム設定）3 →［ズーム設定］→希望の設定を選ぶ。

光学ズームのみ：［画像サイズ］がLのときは、光学ズームのみを使用する。［画像サイズ］がL以外のときは、光学ズーム倍率を超えても、トリミング処理により画質を劣化させずにズームする。（sスマートズーム）

入：全画素超解像ズーム：光学ズーム倍率、スマートズーム倍率を超えても、ほとんど画質を劣化させずにズームする（c）

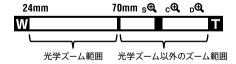
入：デジタルズーム：全画素超解像ズーム倍率を超えても、さらに高倍率でズームする（D）。ただし画質は劣化する。

---

2 W/T（ズーム）レバーをT側へ動かしてズームする。

- コントロールリングに割り当てることもできます（70ページ）。

ズームバーの表示について

ご注意

- ［画質］が［RAW］、［RAW+JPEG］のときは光学ズームのみ使用できます。

ズーム倍率

画像サイズによって、光学ズーム2.9倍（35mm判換算焦点距離で24mmから70mm）に組み合わされるズーム倍率は変わります。

［横縦比］が［3:2］のとき

ズーム設定 / 画像サイズ	光学ズームのみ（スマートズーム）	入：全画素超解像ズーム	入：デジタルズーム
L:20M	–	2.0倍	4.0倍
M:10M	1.4倍	2.8倍	5.6倍
S:5.0M	2.0倍	4.0倍	8.0倍

フラッシュを発光して撮る

1 ⚡(フラッシュポップアップ)スイッチをスライドして、フラッシュ発光部を上げる。

- フラッシュは自動ではポップアップしません。

2 コントロールホイールの ⚡(フラッシュモード) → 好みのモードを選ぶ。

コントロールホイールに他の機能が割り当てられている場合は、MENUボタン → 📷(撮影設定) 2 → [フラッシュモード]から選べます。

(発光禁止): 発光しない。

(自動発光): 暗い場所、または逆光のとき、自動で発光する。

⚡(強制発光): 必ず発光する。

(スローシンクロ): 必ず発光する。暗い場所ではシャッタースピードを遅くし、フラッシュが届かない背景も明るく撮影する。

(後幕シンクロ): 露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。走っている自動車など動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

- フラッシュが上がっていない状態では、(発光禁止)以外を選んでも発光しません。

ご注意

- ズームをW側にしてフラッシュ撮影すると、撮影状況によってはレンズの影が写ることがあります。この場合は被写体から離れて撮影するか、ズームをT側にしてフラッシュ撮影してください。

- モニターが90度以上回転しているときは、⚡(フラッシュポップアップ)スイッチが操作しにくくなります。先にフラッシュ発光部を上げてからモニターの角度調整をしてください。
- 自分撮りにフラッシュを使う場合は、近距離での発光になるので、直接フラッシュを見ないように注意してください。

フラッシュを使わないときは

フラッシュを使用しない場合は、手でフラッシュ発光部を下げてください。

使用可能なフラッシュモード

設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。
下の表で○は選択可能、×は選択不可能を表しています。
選択できないフラッシュモードはグレーで表示されます。

撮影設定/その他設定		(発光禁止)	AUTO	(強制発光)	SLOW	REAR
i(カメラ)(おまかせオート)		○	○	○	×	×
i(カメラ)+(プレミアムおまかせオート)		○	○	○	×	×
P(プログラムオート)		×	×	○	○	○
A(絞り優先)		×	×	○	○	○
S(シャッタースピード優先)		×	×	○	○	○
M(マニュアル露出)		×	×	○	○	○
(動画)*		○	×	×	×	×
(スイングパノラマ)*		○	×	×	×	×
シーンセレクション	(ポートレート)(マクロ)	○	○	○	×	×
	(スポーツ)(ペット)(料理)(風景)(夕景)	○	×	○	×	×
	(夜景)* (手持ち夜景)* (人物ブレ軽減)* (打ち上げ花火)* (高感度)*	○	×	×	×	×
	(夜景ポートレート)	×	×	×	○	×

* これらの撮影モードではフラッシュ撮影はできません。

ご注意

- モードダイヤルがMR(登録呼び出し)のときは、登録した設定によって選べるフラッシュモードが変わります。

モニター表示を変える（DISP）

1 コントロールホイールのDISP → 希望のモードを選ぶ。

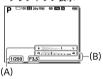
撮影時に選択できるモードはMENUボタン → ✿（カスタム設定）2 →［DISPボタン］で設定できます。

撮影時

グラフィック表示

全情報表示

情報表示なし

水準器

ヒストグラム

ファインダー撮影用

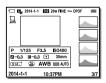
グラフィック表示：基本的な撮影情報を表示。シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現し露出の仕組みを分かりやすくイメージ化して表現する。シャッタースピードインジケータ（A）/絞りインジケータ（B）のバーが現在の位置を指す。

水準器：カメラの傾きを示す指標を表示。水平状態のときは緑色に変わる。

ヒストグラム：画像の明暗をグラフ（ヒストグラム）で表示。

ファインダー撮影用：Fnボタンを押すと、変更したい項目をダイレクトに操作できます。コントロールホイールの▲/▼/◀/▶を押して設定する機能を選び、コントロールホイールを回して希望の設定にしてください（クイックナビ）。

再生時

ヒストグラム

情報表示あり：撮影時の情報を表示する。

ヒストグラム：撮影時の情報とヒストグラムを表示する。

情報表示なし：撮影時の情報を表示しない。

- 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します。（白とび黒つぶれ警告）
- ヒストグラム表示時、画像の拡大はできません。
- 再生時の設定は、オートレビューでも反映されます。

ご注意

- 画面上の補助線（グリッドライン）はDISPを押しても消せません。MENUボタン → ✿（カスタム設定） 1→ ［グリッドライン］で設定を変えてください。

画像のサイズを選ぶ

画像サイズは画像を記録するときの大きさのことです。
画像サイズが大きいほど、大きな用紙にも詳細にプリントできますが、ファイルサイズが大きくなります。画像サイズを小さくすると、ファイルサイズも小さくなりたくさん撮影できます。

1 MENUボタン → (撮影設定) 1 → [画像サイズ]または[パノラマ: 画像サイズ] → 希望の設定を選ぶ。

- 横縦の比率は、MENUボタン → (撮影設定) 1 →[横縦比]で選びます。

画像サイズ([横縦比]が[3:2]のとき)		用途例
L:20M	5472 × 3648画素	A3ノビサイズまでの印刷
M:10M	3888 × 2592画素	A3サイズまでの印刷
S:5.0M	2736 × 1824画素	L/2L/A4サイズまでの印刷

画像サイズ([横縦比]が[16:9]のとき)		用途例
L:17M	5472 × 3080画素	ハイビジョンテレビでの再生
M:7.5M	3648 × 2056画素	
S:4.2M	2720 × 1528画素	

画像サイズ([横縦比]が[4:3]のとき)		用途例
L:18M	4864 × 3648画素	パソコンでの表示
M:10M	3648 × 2736画素	
S:5.0M	2592 × 1944画素	
VGA	640 × 480画素	Eメールに添付

画像サイズ（[横縦比]が[1:1]のとき）		用途例
L:13M	3648 × 3648画素	中判カメラのような構図での撮影
M:6.5M	2544 × 2544画素	
S:3.7M	1920 × 1920画素	

パノラマ：画像サイズ	説明
標準	上下 : 3872×2160 左右 : 8192×1856
ワイド	上下 : 5536×2160 左右 : 12416×1856

ご注意

- ［画質］が［RAW］、［RAW+JPEG］のとき、RAW画像の画像サイズはL相当となります。
- ［16:9］や［スイングパノラマ］で撮影した静止画画像は、プリント時に両端が切れることがあります。

画質を選ぶ（RAW/JPEG）

1 MENUボタン → （撮影設定）1 → ［画質］ → 希望の設定を選ぶ。

RAW：デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。

- パソコンでの加工にはImage Data Converterを使用してください（84ページ）。

RAW+JPEG：RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に適している。JPEGの画質は［ファイン］になる。

エクストラファイン / ファイン / スタンダード：画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。［エクストラファイン］、［ファイン］、［スタンダード］の順で圧縮率が大きくなり、1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。

ご注意

- ［RAW］または［RAW+JPEG］のとき、以下の機能は使用できません。
  - 光学ズーム以外のズーム
  - ［オートHDR］
  - ［ピクチャーエフェクト］
  - ［オートフレーミング］
  - ［日付書き込み］
  - ［マルチショットNR］
  - ［高感度NR］
  - ［美肌効果］
- ［RAW］または［RAW+JPEG］の場合はデータ量が多いため、1枚のメモリーカードに記録できる枚数がJPEG形式より少なくなります。

静止画の撮影モードを変える（モードダイヤル）

撮りたい被写体や、操作したい機能に合わせて、モードダイヤルで撮影モードを設定します。

1 モードダイヤルを回して希望のモードを選ぶ。

カメラまかせで自動撮影する

露出（シャッタースピードと絞り）など、多くの機能が自動で設定されます。

iO（おまかせオート）（30）	シーンを認識し、自動設定で撮影する。
iO+（プレミアムおまかせオート）（30）	おまかせオート撮影より高画質な画像を撮影できる。カメラまかせでシーンとコンディションを認識し、必要に応じて自動で連写して重ね合わせ処理を行う。 ● 重ね合わせ処理には、若干の時間がかかります。記録される画像は1枚です。
SCN（シーンセレクション）（46）	撮影条件に合わせて、あらかじめ用意された設定で撮影する。

好みの設定で撮影する

Fn（ファンクション）やMENUで多彩な機能を設定できます。

P（プログラムオート）(31)	露出（シャッタースピードと絞り）は自動設定される。FnやMENUで多彩な機能を設定できる。
A（絞り優先）(47)	背景をぼかしたいときなど、絞り値を設定して撮影する。
S（シャッタースピード優先）(48)	動きの速いものを撮るときなど、シャッタースピードを設定して撮影する。
M（マニュアル露出）(49)	シャッタースピードと絞りを手動で設定して、好みの露出で撮影できる。
MR（登録呼び出し）(69)	あらかじめ登録しておいた、よく使うモードやカメラの設定を呼び出して撮影できる。

その他の撮影モードで撮影する

(動画) (76)	動画撮影に関するモードや設定の変更ができる。
(スイングパノラマ)(51)	画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。

場面に合った撮影モードを使う（シーンセレクション）

1 モードダイヤルをSCN（シーンセレクション）にする。

2 コントロールホイールを回して希望のシーンを選ぶ。

- ［モードダイヤルガイド］が［切］の場合は、シーンを選択する画面が表示されません。
- 他のシーンにしたいときは、コントロールホイールで選び直せます。

（ポートレート）：背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。

（スポーツ）：高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。

（マクロ）：花などに近づいて撮影する。

（風景）：風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。

（夕景）：夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。

（夜景）：暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。

（手持ち夜景）：三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。

（夜景ポートレート）：夜景を背景に手前の人物を撮る。フラッシュ発光部を上げて使う。

（人物ブレ軽減）：室内で人物撮影する場合、フラッシュを使わずにブレを軽減する。連写を行い、画像を合成して被写体ブレやノイズを軽減して記録する。

（ペット）：ペットを最適な設定で撮影する。

（料理）：料理を明るく美味しそうに撮影する。

（打ち上げ花火）：打ち上げ花火をきれいに撮影する。

ISO**（高感度）：**暗いところであっても、フラッシュを使わずにブレを軽減する。動画撮影時は暗いシーンを明るく撮影する。

絞りとシャッタースピードを好みの設定にする

背景のぼかし具合を調節して撮る（絞り優先）

ピントの合う範囲や、背景のぼかし具合を変えて撮影できます。

1 モードダイヤルをA（絞り優先）にする。

2 コントロールホイールを回して、絞り値（F値）の設定値を選ぶ。

3 シャッターボタンを押す。

絞りについて

F値を小さくする（絞りを開ける）と、ピントの合う範囲は前後に狭くなり、背景をぼかして、被写体をくっきりと表現できます。

F値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲は前後に広がり、風景の広がりを表現できます。

ご注意

- 設定後に適正露出が得られない場合、モニターの設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。

動くものの表現を変えて撮る（シャッタースピード優先）

シャッタースピードを手動で調節できます。

1 **モードダイヤルをＳ（シャッタースピード優先）にする。**

2 **コントロールホイールを回して、シャッタースピードの設定値を選ぶ。**

3 **シャッターボタンを押す。**

シャッタースピードについて

シャッタースピードを速くすると、走っている人や車、波しぶきなどの動きのあるものが止まって見えます。

シャッタースピードを遅くすると、川の流れなどの軌跡が残り、より自然な流動感のある画像になります。

ご注意

- 設定後に適正露出が得られない場合、モニターの設定値表示が点滅します。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。

思い通りの露出で撮る（マニュアル露出）

シャッタースピードと絞り（F値）を調節して、好みの露出で撮影します。設定した露出は電源を切っても保持されるため、後でモードダイヤルをM（マニュアル露出）にしたときも同じ露出を再現できます。

1 モードダイヤルをM（マニュアル露出）にする。

2 コントロールホイールの▼を押して、設定する項目を選ぶ。

押すたびに設定できる項目が変わります。

3 コントロールホイールを回して、設定値を選ぶ。

- 設定した露出と本機が判断した適正露出の差がモニター上のM.M.(メータードマニュアル)で確認できます。
- コントロールリングでも設定できます(70ページ)。

4 シャッターボタンを押す。

ご注意

- 設定後にメータードマニュアルの測光範囲を超えている場合は、メータードマニュアルの値が点滅します。
- ［ISO感度］を［ISO AUTO］に設定したときは、設定した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるようにISO感度が変化します。メータードマニュアルは表示されません。適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度が点滅します。
- ［NDフィルタ］の［オート］は設定できません。

BULB（バルブ）撮影で動きの軌跡を撮る

シャッタースピードの設定で、[BULB]と表示されるまでコントロールホイールを左に回してください。シャッターボタンを押し続けている間撮影します。

- 花火の光が尾を引くような写真や、星の軌跡の撮影に適しています。
- 画像がブレやすくなるため、三脚や、シャッターボタンのロック機能を持つ、マルチ端子対応リモートコマンダー（別売）のご使用をおすすめします。

パノラマ画像を撮る

カメラを動かす間に複数の画像を撮影し、合成して1枚のパノラマ画像を作成します。

1 **モードダイヤルを▭（スイングパノラマ）にする。**

2 **コントロールホイールを回して撮影方向を選ぶ。**

3 **明るさ、ピントを合わせたい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しする。**

4 **シャッターボタンを半押しした状態で構図の端にカメラを向け、シャッターボタンを深く押し込む。**

撮影されない部分

5 **モニター上の矢印方向に、ガイド上の撮影進行表示が終端に来るまで、カメラを動かす。**

ガイド

パノラマ撮影のポイント

脇をしめてできるだけカメラを体に寄せ、体を軸に、一定の速度で小さな円を描くように、モニターの矢印と同じ方向に動かしてください(半周5秒~6秒が目安です)。
撮影の前にあらかじめ何度か練習しておくことをおすすめします。

- 被写体と背景との距離を充分に保ったり、屋外などの明るい場所で撮ることもポイントです。

ピントを合わせる

ピント合わせの方法を選ぶ

1 MENUボタン → (撮影設定) 3 →［フォーカスモード］ → 希望のモードを選ぶ。

AF-S **(シングルAF)：**ピントが合った時点でピントを固定する。止まっているものの撮影に適している。

AF-C **(コンティニュアスAF)：**シャッターボタン半押しの間はピントを合わせ続ける。動いているものの撮影に適している。

DMF **(DMF)：**手動によるピント合わせとオートフォーカスを組み合わせることができる。

MF **(マニュアルフォーカス)：**ピント合わせを手動で行う。

［DMF］または［マニュアルフォーカス］を選び手動でピントを合わせるときは、コントロールリングを回します（56ページ）。

ご注意

- ［コンティニュアスAF］のときは、シャッターボタン半押しの間はピントを合わせ続けるため画像が揺らぎますが、故障ではありません。

ピントを合わせるエリアを選ぶ（フォーカスエリア）

ピント合わせの位置を変更します。ピントが合いにくいときなどに使用してください。

1 MENUボタン → （撮影設定）3 → ［フォーカスエリア］→ 希望の設定を選ぶ。

（ワイド）	モニター全体を基準に、自動でピントを合わせる。
（中央）	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
（フレキシブルスポット）	モニター上の好きなところに測距枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。 フレキシブルスポット画面で、コントロールホイールを回して、測距枠のサイズを変更できる。
、、（ロックオンAF）	シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。 フォーカスエリア設定画面でロックオンAFにカーソルを合わせて、◀/▶でロックオンAFの開始エリアを変更できる。 追尾開始エリアをフレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

ご注意

- ［ロックオンAF］は［フォーカスモード］が［コンティニュアスAF］のときのみ選べます。

撮影のテクニック

- ［ワイド］で被写体にピントが合わない場合は、［中央］にしてピントを合わせたい被写体に測距枠を合わせ、シャッターボタンを半押ししてピントを固定してください。その後シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に戻して撮影してください。（フォーカスロック）

ご注意

- 暗いシーンや全画素超解像ズーム・デジタルズーム・スマートズーム領域では、画面全体を使ってピントを合わせることがあり、その際には点線の四角い枠が全体に表示されます。

瞳にピントを合わせる（瞳AF）

ボタンを押している間、人物の目にピントを合わせます。

1 MENUボタン → ✿（カスタム設定）4 → ［カスタムキー設定］ → ［中央ボタン］ → ［瞳AF］を選ぶ。

- **C**/🗑（削除）ボタンにも設定できます。

2 人物の顔に本機を向け、コントロールホイール中央の●を押す。

目にピントが合うと、一定時間、目に枠が表示される。

3 コントロールホイール中央の●を押したまま、シャッターボタンを押す。

ご注意

- 状況によっては、目にピントを合わせられない場合があります。目にピントを合わせられないときは、顔を検出して顔にピントを合わせます。
- 人物の顔を検出できない場合、［瞳AF］は使用できません。
- フォーカスモードが［コンティニュアスAF］または［マニュアルフォーカス］のときなど、状況によっては使用できない場合があります。

ピントを手動で好みの位置に合わせる（マニュアルフォーカス）

1 **MENUボタン → (撮影設定) 3 →［フォーカスモード］→［DMF］または［マニュアルフォーカス］を選ぶ。**

2 **コントロールリングを回してピントを調整する。**

ピントを合わせる距離

ご注意

- ［フォーカスモード］を選び直すと、手動で設定したフォーカスの距離は解除されます。

DMFを使ってピントを合わせる

DMFでは以下のように、手動によるピント調整とオートフォーカスを組み合わせることができます。

- オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動でピントを微調整すると、厳密なピント合わせをしたい被写体などに有効です。シャッターボタンを半押ししたまま、コントロールリングを回します。
- あらかじめ手動でピント調整したあと、オートフォーカスでピント調整できます。奥の被写体にピントを合わせたいとき、オートフォーカスでは手前にあるものへピントが合ってしまうような場合に有効です。

- ［MFアシスト］を使うと、マニュアルフォーカスやDMFのピントの調整時に、画像を自動で拡大表示してピントを合わせやすくします（91ページ）。拡大表示中にコントロールホイール中央の●を押すと拡大倍率を変更できます。
- ［ピーキングレベル］を使うと、マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調します。ピントを確認しやすくなります（92ページ）。

AF/MFコントロール

撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます。

- ✿（カスタム設定） 4 → ［カスタムキー設定］で希望のキーにこの機能を割り当てることができます。（72ページ）

好みの画像の仕上がりで撮る（クリエイティブスタイル）

1 モードダイヤルをP（プログラムオート）、A（絞り優先）、S（シャッタースピード優先）、M（マニュアル露出）または 動画アイコン（動画）にする。

2 MENUボタン → カメラアイコン（撮影設定）4 → ［クリエイティブスタイル］ → 希望のクリエイティブスタイルまたは 1Std.（スタイルボックス）を選ぶ。

- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができます。

Std.**（スタンダード）：**さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。

Vivid**（ビビッド）：**彩度とコントラストが高めになる。

Ntrl**（ニュートラル）：**彩度・シャープネスが低くなる。

Clear**（クリア）：**ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気になる。

Deep**（ディープ）：**濃く深みのある色再現にする。

Light**（ライト）：**明るく、すっきりとした色再現にする。

Port.**（ポートレート）：**肌をより柔らかに再現する。

Land.**（風景）：**彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。

Sunset**（夕景）：**夕焼けの赤さを美しく表現する。

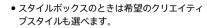
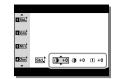
Night**（夜景）：**コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。

Autm**（紅葉）：**紅葉の赤、黄をより鮮やかに表現する。

B/W**（白黒）：**白黒のモノトーンで表現する。

Sepia**（セピア）：**セピア色のモノトーンで表現する。

3 ◑（コントラスト）、⊛（彩度）、◫（シャープネス）を調整したいときは、コントロールホイールの◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。

- スタイルボックスのときは希望のクリエイティブスタイルも選べます。

好みの効果を使って印象的に撮る（ピクチャーエフェクト）

ピクチャーエフェクトで効果を付けて記録した画像は元に戻せません。

1 モードダイヤルをP（プログラムオート）、A（絞り優先）、S（シャッタースピード優先）またはM（マニュアル露出）にする。

2 MENUボタン → （撮影設定）4 → ［ピクチャーエフェクト］→ 希望のモードを選ぶ。

さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、◀/▶で希望の設定を選びます。

（切）：効果を使用しない。

（トイカメラ）：周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。◀/▶で色合いを設定できる。

（ポップカラー）：色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。

（ポスタリゼーション）：原色のみ、または白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。◀/▶で［ポスタリゼーション：白黒］か［ポスタリゼーション：カラー］かを選択できる。

（レトロフォト）：古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。

（ソフトハイキー）：明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持った仕上がりになる。

（パートカラー）：1色のみをカラーで残し、他の色はモノクロに仕上がる。◀/▶で残す色を設定できる。

（ハイコントラストモノクロ）：明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。

（ソフトフォーカス）：柔らかな光につつまれたような雰囲気の仕上がりになる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。

(絵画調HDR)：絵画のように色彩やディテールが強調された仕上がりになる。3回シャッターが切れる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。

(リッチトーンモノクロ)：階調が豊かでディテールも再現されたモノクロに仕上がる。3回シャッターが切れる。

(ミニチュア)：ミニチュア模型を撮影したようにボケが大きく、鮮やかな仕上がりになる。◀/▶でボケる位置を設定できる。

(水彩画調)：にじみやぼかしを加えて水彩画のような効果をつける。

(イラスト調)：輪郭を強調するなどしてイラストのような効果をつける。◀/▶で効果の強弱を設定できる。

撮影のテクニック

- ［トイカメラ］、［ポップカラー］、［ポスタリゼーション］、［レトロフォト］、［ソフトハイキー］、［パートカラー］、［ハイコントラストモノクロ］は動画撮影でも使えます。

ご注意

- ピクチャーエフェクトを設定すると［DRO/オートHDR］や［クリエイティブスタイル］など、使用できなくなる機能があります。
- ピクチャーエフェクトのモードによって使用できなくなる機能があります。
- ［画質］が［RAW］または［RAW+JPEG］のとき、［ピクチャーエフェクト］を設定できません。

明るさを調整する(露出補正)

通常の撮影設定では、露出が自動的に設定されます(自動露出)。自動露出で設定された露出値を基準に、＋側に補正すると、画像全体を明るく、－側に補正すると、画像全体を暗くできます(露出補正)。

1 コントロールホイールの ☑ / ◘ (露出補正) → ◀/▶を押す、またはホイールを回して希望の補正値を選ぶ。

＋(オーバー)側 : 画像が明るくなる。

－(アンダー)側 : 画像が暗くなる。

- [おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]のときは、☑/◘ を押すとマイフォトスタイルの設定画面になります。

ご注意

- 撮影モードが以下の場合は、露出補正できません。
  - [おまかせオート]
  - [プレミアムおまかせオート]
  - [シーンセレクション]
  - [マニュアル露出]で[ISO感度]が[ISO AUTO]以外

ISO感度を選ぶ

1 モードダイヤルをP(プログラムオート)、A(絞り優先)、S(シャッタースピード優先)、M(マニュアル露出)または 🎞(動画)にする。

2 MENUボタン → 📷(撮影設定) 3 → [ISO感度] → 希望の設定を選ぶ。

(マルチショットNR):連続撮影により写真を重ね合わせ、ノイズの少ない画像を撮影する。
▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。

ISO AUTO(ISO AUTO):カメラが明るさに応じた感度を自動で設定する。▶で設定画面を表示して、ISO AUTO時の上限値、下限値を設定することもできる。

- ISO値は、数値が大きいほど高感度になります。

ご注意

- ISO 125未満では、記録できる被写体輝度の範囲(ダイナミックレンジ)が少し狭くなります。
- 静止画撮影時と動画撮影時で、選べる設定が異なります。
- [マルチショットNR]に設定しているときは、重ね合わせ処理をするため、記録処理に時間がかかります。また、フラッシュは発光しません。

連続して撮る（連写）

1枚撮影、連続撮影、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

1 コントロールホイールの
(ドライブモード) → 希望のモードを選ぶ。

DISP

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、◀/▶で希望の設定を選びます。
- コントロールホイールに他の機能が割り当てられている場合は、MENUボタン →（撮影設定）2 →［ドライブモード］から選べます。

（1枚撮影）：通常の撮影方法。

（連続撮影）：シャッターボタンを押している間、連続して撮影する。

（速度優先連続撮影）：シャッターボタンを押している間、高速で連続撮影する。ピントは1枚目で固定される。

BRK C（連続ブラケット）：露出を段階的にずらして、合計3枚または5枚の画像を連続して記録する。露出の段数は設定できる。

BRK S（1枚ブラケット）：露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。

BRK WB（ホワイトバランスブラケット）：選択されているホワイトバランス、色温度・カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。［Lo］または［Hi］からずらす値の幅を選ぶ。

BRK DRO（DROブラケット）：Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

ご注意

- 以下のときは、連続撮影、ブラケット撮影ができません。
  - 撮影モードが[スイングパノラマ]
  - [シーンセレクション]の[スポーツ]以外*
  - [ピクチャーエフェクト]が[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[水彩画調]、[イラスト調]
  - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]
  - [ISO感度]が[マルチショットNR]
  - [スマイルシャッター]
- 連続撮影は記録処理に時間がかかります。記録処理の間はモニターに「処理中」と表示されます。

* [シーンセレクション]が[スポーツ]の場合もブラケット撮影はできません(98ページ)。

セルフタイマーで撮る

1 コントロールホイールの ౪ / ⧉（ドライブモード）→ 希望のモードを選ぶ。

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、◀/▶で希望の設定を選びます。
- コントロールホイールに他の機能が割り当てられている場合は、MENUボタン → 📷（撮影設定）2 →［ドライブモード］から選べます。

౪（セルフタイマー）：10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは撮影の際のカメラブレを和らげるのに使う。シャッターボタンを押すと、セルフタイマーランプが点滅して「ピッピッピッ」と電子音が鳴り、撮影が開始される。解除するにはもう一度シャッターボタンを押す。

౪C（セルフタイマー（連続））：シャッターボタンを押して10秒後に連写撮影する。3枚または5枚から撮影枚数を選ぶ。

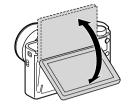
セルフタイマーを解除するには

౪ / ⧉を押して□（1枚撮影）を選んでください。

ご注意

- 以下のときは、セルフタイマーを使えません。
  - 撮影モードが［スイングパノラマ］
  - ［シーンセレクション］の［手持ち夜景］、［スポーツ］、［人物ブレ軽減］
  - ［ピクチャーエフェクト］が［ソフトフォーカス］、［絵画調HDR］、［リッチトーンモノクロ］、［ミニチュア］、［水彩画調］、［イラスト調］
  - ［DRO/オートHDR］が［オートHDR］
  - ［ISO感度］が［マルチショットNR］
  - ［スマイルシャッター］

自分撮りで自動撮影するには

自分を撮影するときは、モニターを上側へ約180度回転させてレンズを自分に向けます。お買い上げ時の設定では、自動的に3秒セルフタイマーになります。

かんたんな操作で好みの設定にして撮る（マイフォトスタイル）

マイフォトスタイルは、通常の画面とは異なるデザインで直感的にカメラを操作できるモードです。かんたんな操作で設定を変更して撮影できます。

1 モードダイヤルをi（おまかせオート）またはi+（プレミアムおまかせオート）にする。

2 コントロールホイールの / （マイフォトスタイル）→ 変更する項目を選ぶ。

（背景ぼかし）：背景のぼかし具合を調整する。

（明るさ）：明るさを調整する。

（色あい）：色合いを調整する。

（鮮やかさ）：鮮やかさを調整する。

（ピクチャーエフェクト）：好みの効果を選んで、独自の風合いで撮影する。

3 コントロールホイールの▲/▼を押す、またはホイールを回して希望の設定にする。

- この手順を繰り返して色々な設定を組み合わせることができます。
- マイフォトスタイルを終了するには、MENUボタンを押します。

ご注意

- マイフォトスタイルで動画を撮影する場合、撮影中に設定できるのは背景ぼかしのみです。
- マイフォトスタイルを終了したり、電源を切ると、各設定は初期設定に戻ります。
- プレミアムおまかせオート時に、マイフォトスタイルを設定すると、重ね合わせ処理はされません。

撮影機能を自分好みにカスタマイズする

登録した設定を呼び出して撮影する(MR)

よく使うモードやカメラの設定を3つまで本機に登録でき、
MR(登録呼び出し)で呼び出せます。

設定を登録する

① 登録したい設定にする。

- 以下の項目を登録できます。
  モードダイヤルで設定する撮影モード/絞り(F値) /シャッタースピード/(撮影設定)項目/光学ズーム倍率
- プログラムシフト、マニュアルフォーカスの設定は登録できません。

② MENUボタン → (撮影設定) 7 → [登録] →
コントロールホイールの◀/▶で希望の番号を選ぶ → 中央の●で決定。

登録した設定を呼び出す

① モードダイヤルをMR(登録呼び出し)にする。

② コントロールホイールの◀/▶で、呼び出したい番号を選び、中央の●を押す。

- 登録した内容を変更するには、希望する設定にして同じ番号に再登録してください。

Fn（ファンクション）ボタンの設定機能を変える

1 MENUボタン → ✿（カスタム設定）4 →［ファンクションメニュー設定］→［ファンクション上段1］～［ファンクション下段6］→ 希望のモードを選ぶ。

割り当てられる機能

ドライブモード/フラッシュモード/調光補正/フォーカスモード/フォーカスエリア/露出補正/ISO感度/NDフィルタ/測光モード/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/撮影モード/ピクチャーエフェクト/中央ボタン押しロックオンAF/顔検出/スマイルシャッター/美肌効果/オートフレーミング/画像サイズ/横縦比/画質/手ブレ補正（静止画）/手ブレ補正（動画）/ゼブラ/グリッドライン/ピーキングレベル/ピーキング色/未設定

コントロールリングの設定機能を変える

コントロールリングにはよく使う機能を登録しておくことができ、撮影時に即時に設定ができます。

1 MENUボタン → ✿（カスタム設定）4 →［カスタムキー設定］→［コントロールリング］→ 希望の設定を選ぶ。

スタンダード：撮影モードごとにカメラがおすすめする機能が割り当てられる。

露出補正/ISO感度/ホワイトバランス/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/ズーム/シャッタースピード/絞り：選択した機能が割り当てられる。

未設定：機能を割り当てない。

撮影モード	[スタンダード]時に割り当てられる機能
iO（おまかせオート）	ズーム
iO+（プレミアムおまかせオート）	ズーム
P（プログラムオート）	プログラムシフト
A（絞り優先）	絞り
S（シャッタースピード優先）	シャッタースピード
M（マニュアル露出）	絞り
▭（スイングパノラマ）	撮影方向
SCN（シーンセレクション）	シーンセレクション

ご注意

- [フォーカスモード]が[DMF]または[マニュアルフォーカス]のときは割り当てられた機能を呼び出すことはできません。コントロールリングは手動ピント合わせとして機能します。

カスタムキーの設定機能を変える

C/🗑(削除)ボタン、またはコントロールホイールの●/◀/▶には、他の機能を割り当てることもできます。

---

1 MENUボタン → ✿(カスタム設定) 4 → [カスタムキー設定] → 希望のキー → 希望の設定を選ぶ。

割り当てられる機能

スタンダード*1/ドライブモード/フラッシュモード/調光補正/フォーカスモード/フォーカスエリア/露出補正/ISO感度/NDフィルタ/測光モード/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ピクチャーエフェクト/顔検出/スマイルシャッター/美肌効果/オートフレーミング/手ブレ補正/手ブレ補正/画像サイズ/横縦比/画質/カメラ内ガイド/登録/押す間AEL*2/再押しAEL/押す間スポットAEL*2/再押しスポットAEL/押す間AF/MFコントロール*2/再押しAF/MFコントロール/中央ボタン押しロックオンAF/瞳AF*2/ピント拡大/モニターミュート*3/ゼブラ/グリッドライン/ピーキングレベル/ピーキング色/スマートフォン転送/ダウンロードアプリ/登録アプリ一覧/モニター明るさ/未設定

*1 中央ボタンにのみ設定できます。
*2 左ボタン/右ボタンには設定できません。
*3 モニターの表示を消すことができます。

動画を撮る

1 MOVIE（動画）ボタンを押して、撮影を開始する。

- W/T（ズーム）レバーをT側へ動かすとズームし、W側へ動かすと戻ります。
- シャッタースピードや絞りを希望の値に設定したいときは、モードダイヤルを 目目（動画）にしてください（76ページ）。

2 もう一度MOVIEボタンを押して、終了する。

ご注意

- 動画記録中にズームなどの操作をすると、カメラの動作音や操作音が記録されます。また、動画撮影終了時、MOVIEボタンの操作音が記録されることがあります。
- 連続撮影可能時間は出荷時設定を使い約25℃で撮影した場合、1回につき約29分です。撮影が終わってしまったら、もう一度MOVIEボタンを押すと撮影を再開できます。撮影環境温度によっては、機器保護のため停止する場合があります（5ページ）。
- MENUボタン → ◼（撮影設定）7 → ［音声記録］ → ［切］にすると、音声を記録しないようにできます（91ページ）。

MOVIEボタンについて

お買い上げ時の設定では、［MOVIE（動画）ボタン］が［常に有効］なため、すべての撮影モードから動画撮影を開始できます。
MENUボタン → ✿（カスタム設定） 4 → ［MOVIE（動画）ボタン］ → ［動画モードのみ有効］にすると、モードダイヤルが目目（動画）以外のときはMOVIEボタンを押しても動画は撮影されません。

動画の記録方式/画質を選ぶ

1 MENUボタン → (撮影設定)1 → [記録方式] → 希望の設定を選ぶ。

記録方式	特徴	
XAVC S	AVCHDと比べると情報量が多くなるため、より鮮明な画像を記録できます。このフォーマットで記録できるメモリーカードについては、103ページをご覧ください。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンに保存できます。
AVCHD	パソコン以外の保存機器との互換性に優れています。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンまたは対応メディアに保存できます。
MP4	スマートフォンでの再生やネットワークへのアップロード、Web公開が簡単に行えます。	ソフトウェアPlayMemories Homeでパソコンに保存できます。

2 MENUボタン → (撮影設定)2 → [記録設定] →希望の設定を選ぶ。

- 各記録設定時の最大記録時間の目安は105ページをご覧ください。

[記録方式]が[XAVC S]のとき

記録設定	ビットレート	説明
60p 50M	約50 Mbps *1	1920×1080(60p)の高画質で撮影する。
30p 50M	約50 Mbps *1	1920×1080(30p)の高画質で撮影する。
24p 50M	約50 Mbps *1	1920×1080(24p)の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

120p 50M	約50 Mbps *1	1280×720（120p）のハイスピード記録を行う。120 fpsの動画と音声が記録できる。 • 対応する編集機器を使って、より滑らかなスローモーション映像を作ることができます。

［記録方式］が［AVCHD］のとき

記録設定	ビットレート	説明
60i 24M(FX)	約24 Mbps *1	1920×1080（60i）の高画質で撮影する。
60i 17M(FH)	約17 Mbps *2	1920×1080（60i）の標準画質で撮影する。
60p 28M(PS)	約28 Mbps *1	1920×1080（60p）の最高画質で撮影する。 • 撮影した動画を扱うには対応機器が必要です。
24p 24M(FX)	約24 Mbps *1	1920×1080（24p）の高画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。
24p 17M(FH)	約17 Mbps *2	1920×1080（24p）の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気で記録できる。

［記録方式］が［MP4］のとき

記録設定	ビットレート	説明
1440×1080 12M	約12 Mbps *2	1440×1080で撮影する。
VGA 3M	約3 Mbps *2	VGAサイズで撮影する。

*1 最大

*2 平均

ご注意

- ［記録設定］を［60p 28M(PS)］または［60i 24M(FX)］、［24p 24M(FX)］にして撮影した動画からAVCHD記録ディスクを作成すると、画質が変換されるため、ディスク作成に時間がかかります。画質を変換せずに保存したい場合は、ブルーレイディスクをお使いください。

絞りとシャッタースピードを設定して動画を撮る

絞りやシャッタースピードを設定して、背景のぼかし具合や流動感を思い通りにコントロールした動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを ⊞ （動画）にする。

2 MENUボタン → （撮影設定）6 → ［動画］ →希望のモードを選ぶ。

⊞P （プログラムオート）（31）： 露出（シャッタースピードと絞り）は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整でき、設定した値は保持される。
⊞A （絞り優先）（47）： 絞りを手動設定する。
⊞S （シャッタースピード優先）（48）： シャッタースピードを手動設定する。
⊞M （マニュアル露出）（49）： 露出（シャッタースピードと絞り）を手動設定する。

3 MOVIE（動画）ボタンを押して撮影する。

手ブレを抑えて動画を撮る

動画撮影時も手ブレ補正を利用して撮影できます。

1 MENUボタン → （撮影設定）6 → ［⊞手ブレ補正］ →希望の設定を選ぶ。

インテリジェントアクティブ： 最も強い手ブレ補正を得る。

アクティブ： 強い手ブレ補正を得る。

スタンダード： 比較的安定した状態で、手ブレ補正を行い撮影する。

切： 手ブレ補正を行わない。

ご注意

- ［⊞手ブレ補正］の設定を変更すると、画角が変わります。

静止画を見る

1 ▶（再生）ボタンを押す。

2 コントロールホイールの▶（次）/◀（前）を押す、または コントロールホイールを回して画像を選ぶ。

- 拡大するには、W/T（ズーム）レバーをT側に動かしてください。最初は大きく拡大されますのでW側に動かして倍率を調整してください。

撮影に戻るには

▶（再生）ボタンを押す。

- シャッターボタンを半押ししても撮影に戻ります。

動画を見る

1 ▶（再生）ボタンを押して再生モードにする。

2 コントロールホイールで再生したい動画を選び、中央の●を押す。

動画の再生が始まる。

- もう一度中央の●を押すと、一時停止します。再生中に◀/▶を押すと早戻し、早送りができます。▼を押すと、操作パネルが表示されます。

操作パネル	できること
►	再生
❚❚	一時停止
►►	早送り
◄◄	早戻し
❚►	スロー再生
◄❚	スロー逆再生
►►❚	次の動画
❚◄◄	前の動画
❚❚►	コマ送り
◄❚❚	コマ戻し
●••	モーションショットビデオ（動きのある被写体の残像表示）
🔊	音量設定
↶	操作パネルを閉じる

テレビで再生するには

HDMIケーブル（別売）で本機とテレビを接続する。

素早く探す（一覧表示）

1 **▶（再生）ボタンを押して再生モードにし、W/T（ズーム）レバーをW側に動かす。**

2 **コントロールホイールの▲/▼/◀/▶を押す、またはコントロールホイールを回して画像を選ぶ。**

コントロールホイール中央の●を押すと、1枚再生に戻ります。

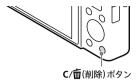
希望の画像を素早く表示するには

コントロールホイールで左側のバーを選び、▲/▼でページを送ることができます。また、左側のバーを選んでコントロールホイール中央の●を押すと、カレンダー画面またはフォルダー選択画面になり、日付またはフォルダーを選べます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます（95ページ）。

見る

削除する

1 **▶(再生)ボタンを押して削除したい画像を表示し、C/🗑(削除)ボタンを押す。**

C/🗑(削除)ボタン

2 **コントロールホイールの▲で[削除]を選び、中央の●を押す。**

- MENUボタン → ▶(再生) 1 → [削除]で、複数の画像を一度に削除することもできます(95ページ)。

すべての画像を削除する(フォーマット)

メモリーカードのデータをすべて削除します。フォーマットするとプロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが消去され、元に戻せません。

MENUボタン → 🧰(セットアップ) 4 → [フォーマット] → [実行]を選ぶ。

その他の再生機能を使う

本機はこの他にも多くの再生機能を搭載しています。テレビでの再生方法、撮った画像のプリント方法、連続再生(スライドショー)などの詳細は、ヘルプガイドで確認できます。

- ヘルプガイド(11ページ)
  http://rd1.sony.net/help/dsc/1410/ja/

電子音の設定を変える

本機の電子音が鳴るかどうかを設定します。

1 MENUボタン → (セットアップ) 1 →[電子音] → 希望の設定を選ぶ。

入 : シャッターボタンを半押ししてピントが合ったときなどに、操作音が鳴る。

シャッター : シャッターボタンを押したときのみ、シャッター音が鳴る。

切 : 操作音/シャッター音は鳴らない。

静止画に撮影日付を入れる

撮影した日付を静止画に挿入するように設定できます。

1 MENUボタン → (カスタム設定) 4 → [日付書き込み] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 静止画に入れた日付表示は消せません。
- 印刷時にパソコンやプリンターで日付を入れる設定にすると、二重で日付が印刷されます。
- [画質] が[RAW]または[RAW+JPEG]のときは日付は挿入されません。

PlayMemories Homeを使う

撮影した静止画、動画を、パソコンに取り込んで閲覧や活用ができます。
XAVC S動画やAVCHD動画をパソコンに取り込む場合は
PlayMemories Homeが必要です。

PlayMemories Homeでできること

カメラの画像をPCに取り込み

取り込んだ画像を再生する

PlayMemories Online™で画像をシェア

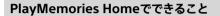
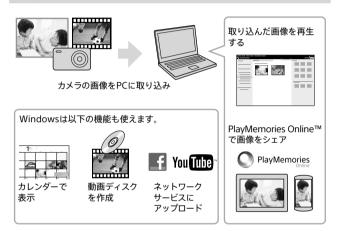
PlayMemories Online

Windowsは以下の機能も使えます。

カレンダーで表示

動画ディスクを作成

ネットワークサービスにアップロード

You Tube™

パソコン環境を確認する

ソフトウェアのパソコン環境は以下のURLよりご確認いただけます。
www.sony.net/pcenv/

ご注意

- PlayMemories Homeのインストールにはインターネット接続が必要です。
- PlayMemories Online、各ネットワークサービスの利用にはインターネット接続が必要です。
- Mac用アプリケーションについては、以下のURLをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/
- 2011年以前の機種に付属のソフトウェアPMB（Picture Motion Browser）がインストールされている場合、PlayMemories Homeが上書きインストールされます。PMBの後継ソフトウェアPlayMemories Homeをご使用ください。

PlayMemories Homeをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のダウンロードサイトにアクセスしてPlayMemories Homeをインストールする。

www.sony.net/pm/

- PlayMemories Homeサポートページ（http://www.sony.co.jp/pmh-sj/）で詳しい操作方法をご確認いただけます。
- インストールが完了すると、PlayMemories Homeが起動します。

2 本機とパソコンを付属のマイクロUSBケーブルで接続する。

- 本機の電源を入れてください。
- PlayMemories Homeに新たに機能が追加されることがあります。すでにPlayMemories Homeがインストールされている場合でも、本機とパソコンを接続してください。

ご注意

- カメラの動作中やアクセス中の画面が表示されている場合、カメラ本体からマイクロUSBケーブル（付属）をはずさないでください。データが壊れることがあります。
- パソコンとの接続を切断するには、タスクトレイのをクリックし、次に[PMHOMEの取り出し]をクリックしてください。

Image Data Converter™を使う

RAW画像を補正してJPEG/TIFFに変換できます。

Image Data Converterでできること

次のことなどができます。

- RAW画像を再生し、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの静止画の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
  RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式（JPEG/TIFF）で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定

Image Data Converterをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のURLにアクセスする。

Windows/Mac :
http://www.sony.co.jp/ids-sj/

2 画面の指示に従ってImage Data Converterをダウンロードしてインストールする。

ご注意

- Image Data Converterのインストールにはインターネット接続が必要です。

Image Data Converterガイドを見る

Image Data Converterの操作について詳しくは、
Image Data Converterガイドをご覧ください。

Windows：

1 ［スタート］ → ［すべてのプログラム］ → ［Image Data Converter］ → ［ヘルプ］ → ［Image Data Converter Ver.4］

Windows 8の場合は、［Image Data Converter Ver.4］を起動して、メニューバーの［ヘルプ］ → ［Image Data Converterガイド］を選ぶ。

Mac：

1 Finderを起動して［アプリケーション］ → ［Image Data Converter］ → ［Image Data Converter Ver.4］ → メニューバーの［ヘルプ］ → ［Image Data Converterガイド］を選ぶ。

- Image Data Converterのサポートページでも詳しい操作方法をご確認いただけます。
  http://www.sony.co.jp/ids-sj/

カメラに機能を追加する

インターネットでアプリケーションダウンロードサイト
(PlayMemories Camera Apps™)に接続して、お好みの機能を本機に追加できます。以下のような機能などを追加できます。

- 多彩なエフェクトで撮影
- ネットワークサービスに直接アップロード

アプリケーションをダウンロードする

1 パソコンでアプリケーションダウンロードサイトへアクセスする。

http://www.sony.net/pmca/

- ダウンロードに必要なパソコンの動作環境は、アプリケーションダウンロードサイトをご確認ください。

2 画面の指示に従って、サービスアカウントを取得する。（初回のみ）

- アカウントをお持ちの場合は、アプリケーションダウンロードサイトへサインインしてください。

3 お好みのアプリケーションを選び、画面の指示に従って本機にアプリケーションをダウンロードする。

- 画面の指示に従って、パソコンと本機をマイクロUSBケーブル（付属）で接続してください。

本機のWi-Fi機能で直接ダウンロードするには

- Wi-Fi機能を使って、パソコンを使用せずにダウンロードすることもできます。
  - あらかじめサービスアカウントを取得してください（86ページ）。
  - MENUボタン → (ワイヤレス) 2 → ［アクセスポイント手動登録］ → 接続したいアクセスポイントを選んで中央の●を押す→
    ［IPアドレス設定］が［マニュアル］になっている場合は［オート］に変更してください。
    MENUボタン → (アプリケーション) 1 → ［アプリ一覧］ →
    (PlayMemories Camera Apps)を選び、画面の指示に従ってダウンロードしてください。

アプリケーションを起動する

1 MENUボタン → (アプリケーション) 1 → ［アプリ一覧］ → 希望のアプリケーションを選んで起動する。

NFC機能を使ってアプリケーションを起動する

- ［ワンタッチ（NFC）］を使うと、NFC機能搭載のAndroidスマートフォンを本機のNにタッチして、アプリケーションを呼び出すこともできます。
  ご購入時、［ワンタッチ（NFC）］には［スマートリモコン内蔵版］が割り当てられています。

アプリケーションをすばやく起動するには

カスタムキーの設定で、［ダウンロードアプリ］、［登録アプリ一覧］を設定しておくと、撮影情報画面でカスタムキーを押すだけでアプリケーションを起動したり、アプリケーション一覧を表示できます。

MENUボタンで選ぶ機能一覧

（撮影設定）

画像サイズ	静止画のサイズを選択する。 （L: 20M/M: 10M/S: 5.0M（3:2のとき） L: 17M/M: 7.5M/S: 4.2M（16:9のとき） L: 18M/M: 10M/S: 5.0M/VGA（4:3のとき） L: 13M/M: 6.5M/S: 3.7M（1:1のとき））
横縦比	静止画の横縦比を選択する。 （3:2/16:9/4:3/1:1）
画質	静止画の画質を設定する。 （RAW/RAW+JPEG/エクストラファイン/ファイン/スタンダード）
パノラマ: 画像サイズ	パノラマ画像のサイズを選択する。 （標準/ワイド）
パノラマ: 撮影方向	パノラマの撮影方向を設定する。 （右/左/上/下）
記録方式	動画を記録するときの記録方式を設定する。 （XAVC S/AVCHD/MP4）
記録設定	動画のサイズを選択する。 （60p 50M/30p 50M/24p 50M/120p 50M/ 60i 24M（FX）/60i 17M（FH）/60p 28M（PS）/ 24p 24M（FX）/24p 17M（FH）/ 1440×1080 12M/VGA 3M）
同時ビデオ記録	XAVC S動画またはAVCHD動画と、MP4動画を同時に記録するかを設定する。
ドライブモード	連続撮影などの撮影方法を設定する。 （1枚撮影/連続撮影/速度優先連続撮影/ セルフタイマー/セルフタイマー（連続）/ 連続ブラケット/1枚ブラケット/ ホワイトバランスブラケット/DROブラケット）

フラッシュモード	フラッシュの発光方式を設定する。 （発光禁止/自動発光/強制発光/スローシンクロ/後幕シンクロ）
調光補正	フラッシュの発光量を調整する。 （–3.0EV～+3.0EV）
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時、目が赤くなるのを軽減する。 （入/切）
フォーカスモード	被写体の動きに応じたピント合わせの方法を選ぶ。 （シングルAF/コンティニュアスAF/DMF/マニュアルフォーカス）
フォーカスエリア	ピント合わせの位置を選ぶ。 （ワイド/中央/フレキシブルスポット/ロックオンAF）
AF補助光	暗所でピントを合わせるための補助光を発光する。 （オート/切）
露出補正	画像全体の明るさを補正する。 （–3.0EV ～+3.0EV）
ISO感度	ISO感度を設定する。 （マルチショットNR/ISO AUTO/ISO 80～ISO 12800）
NDフィルタ	取り込む光量を減少させる機能を設定する。 シャッタースピードを遅くしたりF値を小さくすることができる。 （オート/入/切）
測光モード	明るさを測る方法を選ぶ。 （マルチ/中央重点/スポット）
ホワイトバランス	撮影場所の光の状況に合わせて画像の色合いを調整する。 （オート/太陽光/日陰/曇天/電球/蛍光灯：温白色/蛍光灯：白色/蛍光灯：昼白色/蛍光灯：昼光色/フラッシュ/色温度・カラーフィルター/カスタム1～3/カスタムセット）
DRO/オートHDR	明るさ、コントラストを自動補正する。 （切/Dレンジオプティマイザー/オートHDR）

クリエイティブスタイル	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。 コントラスト、彩度、シャープネスの調整もできる。 (スタンダード/ビビッド/ニュートラル/クリア/ディープ/ライト/ポートレート/風景/夕景/夜景/紅葉/白黒/セピア/スタイルボックス1～6)
ピクチャーエフェクト	好みの効果を使って、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できる。 (切/トイカメラ/ポップカラー/ポスタリゼーション/レトロフォト/ソフトハイキー/パートカラー/ハイコントラストモノクロ/ソフトフォーカス/絵画調HDR/リッチトーンモノクロ/ミニチュア/水彩画調/イラスト調)
ピント拡大	撮影前の画像を拡大してピントの確認ができる。
長秒時NR	シャッタースピードを1/3秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 (入/切)
高感度NR	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 (標準/弱/切)
中央ボタン押しロックオンAF	撮影画面で中央ボタンを押したとき、被写体を追尾してピントを合わせ続ける機能を設定する。 (入/切)
顔検出/スマイルシャッター	人物の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。笑顔を検出すると自動で撮影する。 (切/入(登録顔優先) /入/スマイルシャッター)
美肌効果	顔検出時、被写体の美肌効果を設定する。 (切/入 : 高/入 : 中/入 : 低)
オートフレーミング	人物の顔やマクロ撮影する被写体、または[ロックオンAF]でとらえた被写体を検出して、撮影するときにシーンを分析して、印象の異なる構図で画像を保存する。 (切/オート)
シーンセレクション	撮影状況に合わせて、あらかじめ用意された設定で撮影する。 (ポートレート/スポーツ/マクロ/風景/夕景/夜景/手持ち夜景/夜景ポートレート/人物ブレ軽減/ペット/料理/打ち上げ花火/高感度)

動画	撮りたい被写体や効果に合わせて、露出モードを選んで撮影する。 （プログラムオート/絞り優先/ シャッタースピード優先/マニュアル露出）
静止画手ブレ補正	静止画撮影時の手ブレ補正を設定する。 （入/切）
動画手ブレ補正	動画撮影時の手ブレ補正を設定する。 （インテリジェントアクティブ/アクティブ/ スタンダード/切）
静止画色空間	再現できる色の範囲を変更する。 （sRGB/AdobeRGB）
動画オートスローシャッター	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。 （入/切）
音声記録	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 （入/切）
マイク基準レベル	動画撮影時のマイク基準レベルを設定する。 （標準/低）
風音低減	動画撮影時、風音を低減する。 （入/切）
登録呼び出し	モードダイヤルがMR（登録呼び出し）のとき、呼び出したい設定を選択する。 （1/2/3）
登録	好みのモード、カメラの設定を登録する。

☼（カスタム設定）

ゼブラ	明るさ調整の目安になる縞表示を設定する。 （切/70～100/100+）
静止画MFアシスト	手動ピント合わせ時に画像を拡大表示する。 （入/切）
ピント拡大時間	拡大表示する時間を設定する。 （2秒/5秒/無制限）

グリッドライン	構図を合わせるための線を表示する。 （3分割/方眼/対角＋方眼/切）
オートレビュー	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。 （10秒/5秒/2秒/切）
DISPボタン	DISPボタンを押してモニターやファインダーに表示する情報の種別を設定する。 （グラフィック表示/全情報表示/情報表示なし/水準器/ヒストグラム/ファインダー撮影用*） * モニター表示のみ
ピーキングレベル	マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 （高/中/低/切）
ピーキング色	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 （レッド/イエロー/ホワイト）
露出設定ガイド	撮影画面で露出設定を変更したときに表示するガイドの設定をする。 （切/入）
ライブビュー表示	モニターの表示に、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 （設定効果反映On/設定効果反映Off）
プリAF	シャッターボタンを半押しする前から、自動でオートフォーカスするかしないかを設定する。 （入/切）
ズーム設定	全画素超解像ズーム、デジタルズームを使用するかどうか設定する。 （光学ズームのみ/入：全画素超解像ズーム/入：デジタルズーム）
FINDER/MONITOR	電子ビューファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定する。 （オート/ファインダー）
シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行う設定にできる。 （オート/入/切）

自分撮りセルフタイマー	モニターを上側に約180度回転したときに、撮影方法を3秒セルフタイマーにするかを設定する。 （入/切）
ブラケット順序	露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。 （0→－→＋/－→0→＋）
個人顔登録	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。 （新規登録/優先順序変更/削除/全て削除）
日付書き込み	撮影した日の日付を画像に記録するかどうかを設定する。 （入/切）
ファンクションメニュー設定	Fn（ファンクション）ボタンで表示する機能をカスタマイズする。 （ドライブモード/フラッシュモード/調光補正/フォーカスモード/フォーカスエリア/露出補正/ISO感度/NDフィルタ/測光モード/ホワイトバランス/DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/撮影モード/ピクチャーエフェクト/中央ボタン押しロックオンAF/顔検出/スマイルシャッター/美肌効果/オートフレーミング/画像サイズ/横縦比/画質/手ブレ補正（静止画）/手ブレ補正（動画）/ゼブラ/グリッドライン/ピーキングレベル/ピーキング色/未設定）
カスタムキー設定	あらかじめキーに機能を設定しておくと、撮影情報画面でキーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。 （コントロールリング/Cボタン/コントロールホイールの●/◄/►）
リングのズーム機能	コントロールリングでのズーム機能を設定する。[ステップ]を選ぶと、一定の画角で段階的に切り替わる。 （スタンダード/ステップ）
MOVIE(動画)ボタン	MOVIEボタンが有効になるモードを設定する。 （常に有効/動画モードのみ有効）

ホイールロック	Fnボタンを押して、撮影時にコントロールホイールを一時的に無効にする機能を設定する。Fnボタンを押し続けることでロックまたはロック解除する。(入/切)

(ワイヤレス)

スマートフォン転送	スマートフォンに画像を表示、転送する。 (カメラから選ぶ/スマートフォンから選ぶ)
パソコン保存	本機の画像をネットワークにつながれたパソコンに転送し、バックアップをとる。
テレビ鑑賞	ネットワークにつながれたテレビで画像を見る。
ワンタッチ(NFC)	ワンタッチ(NFC)にアプリケーションを1つ割り当てる。撮影時にNFC対応スマートフォンを本機にタッチすると、そのアプリケーションが起動する。
飛行機モード	飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fi/NFC機能を使用する設定を一時的にすべて無効にする。 (入/切)
アクセスポイント簡単登録	WPSボタンを押すことで、簡単にアクセスポイントを登録できる。
アクセスポイント手動登録	手動でアクセスポイントを登録できる。
機器名称変更	Wi-Fi Directなどの機器名称を変更する。
MACアドレス表示	本機のMACアドレスを表示する。
SSID・PWリセット	スマートフォン接続の接続情報をリセットする。
ネットワーク設定リセット	すべてのネットワーク設定をリセットする。

(アプリケーション)

アプリ一覧	アプリケーションの一覧を表示する。使いたいアプリケーションを選択できる。
サービス紹介	アプリケーションの使い方を表示する。

(再生)

削除	画像を削除する。 (画像選択/このフォルダーの全画像/ この日付の全画像)
ビューモード	再生する画像のグルーピング方法を設定する。 (日付ビュー/フォルダービュー(静止画)/ フォルダービュー(MP4)/AVCHDビュー/ XAVC Sビュー)
一覧表示	一覧表示する枚数を選ぶ。 (9枚/25枚)
記録画像の回転表示	縦向きで記録した静止画の再生方法を設定する。 (オート/マニュアル/切)
スライドショー	画像を連続再生する。 (リピート/間隔設定)
回転	画像を回転する。
拡大	再生画像を拡大表示する。
4K静止画再生	HDMI接続した4K対応テレビに4K解像度で静止画を出力する。
プロテクト	画像を誤って消さないように保護(プロテクト)する。 (画像選択/このフォルダーの全画像/ この日付の全画像/このフォルダーを全て解除/ この日付を全て解除)
モーションショットビデオ設定	動画再生時に、動きのある被写体の残像を見ることができる、モーションショットビデオの残像間隔を調整する。
プリント指定	メモリーカードの画像にプリント予約マークを付ける。 (画像選択/全画像解除/印刷設定)
ビューティーエフェクト	画像の人物の顔を選んで加工し、別の画像として保存する。

(セットアップ)

モニター明るさ	モニターの明るさを設定する。 （オート/マニュアル/屋外晴天）
ファインダー明るさ	ファインダーの明るさを設定する。 （オート/マニュアル）
ファインダー色温度	ファインダーの色温度を設定する。
音量設定	動画再生時の音量を設定する。
電子音	本機の操作時に鳴る音を設定する。 （入/シャッター/切）
アップロード設定	市販のEye-Fiカードを使うときのアップロード通信設定をする。 （入/切）
タイルメニュー	MENUボタンを押したときに、タイルメニューを表示するかを設定する。 (入/切)
モードダイヤルガイド	モードダイヤルガイド（各撮影モードの説明）の表示を設定する。 （入/切）
削除確認画面	削除の確認画面で、［削除］と［キャンセル］のどちらを選択された状態にするかを設定する。 （「削除」が先/「キャンセル」が先）
表示画質	表示画質を設定する。 （高画質/標準）
パワーセーブ開始時間	自動的に電源が切れる時間を設定する。 （30分/5分/2分/1分）
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 （入/切）
HDMI設定	HDMIに関する設定を行います。 （HDMI解像度/HDMI情報表示/HDMI機器制御）
USB接続	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。 （オート/マスストレージ/MTP）

USB LUN設定	USB接続の機能を制限して互換性を高める。通常は［マルチ］のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、［シングル］に設定する。 （マルチ/シングル）
USB給電	USB接続して給電するかどうか設定する。 （入/切）
日時設定	時計、日付の設定をする。
エリア設定	本機を使用する場所に適した時刻に設定する。
フォーマット	メモリーカードをフォーマット（初期化）する。
ファイル番号	ファイル番号の付けかたを設定する。 （連番/リセット）
記録フォルダー選択	画像を記録するフォルダーを設定する。
フォルダー新規作成	静止画と動画（MP4）を記録する新しいフォルダーを作成する。
フォルダー形式	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。 （標準形式/日付形式）
管理ファイル修復	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。
メディア残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。
バージョン表示	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
認証マーク表示	本機が対応している認証情報を表示する（表示されるのは認証情報の一部のみになります）。
設定リセット	設定をお買い上げ時の設定に戻す。すべての設定を初期値に戻す場合は、［初期化］を選ぶ。 （撮影設定リセット/初期化）

撮影モードごとの設定できない機能

選んでいる撮影モードや設定によって、設定できない機能があります。
○は選択可能、×は選択不可能を表しています。

撮影モード/その他設定		露出補正 (62)	セルフタイマー (66)	連続撮影 (64)	ブラケット (64)	ISO (63)	オートHDR (89)
(30)		×	○	○	×	×	×
SCN (46)		×	×	○	×	×	×
		×	○	×	×	×	×
		×	×	×	×	×	×
(51)		○	×	×	×	×	×
P (31)		○	○	○	○	○	○
A (47)		○	○	○	○	○	○
S (48)		○	○	○	○	○	○
M (49)		×*	○	○	○	○	○
(73)		○*	×	×	×	○	×
オートHDR		○	×	×	×	○	○

* 撮影モードがMのときはISOが[ISO AUTO]のときのみ露出補正が可能です。

ご注意

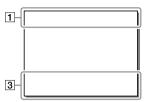
- ○となっている機能でも、選択できない設定値がある場合があります。
- その他の条件によっても制限される場合があります。

モニターに表示されるアイコン一覧

撮影時のアイコン一覧

1

表示	意味
P P*A S M	撮影モード(44)
1 2 3	登録呼び出し(69)
OFF	メモリーカード/アップロード(96)
	シーン認識マーク(30)
ISO	シーンセレクション(46)

再生時のアイコン一覧

表示	意味
100	撮影可能枚数(104)
3:2 16:9 4:3 1:1	静止画の画像横縦比(88)
20M/ 18M/ 17M/ 13M/ 10M/ 7.5M/ 6.5M/ 5.0M/ 4.2M/ 3.7M/ VGA WIDE STD	静止画の画像サイズ(41)
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質(42)
120p 60p 60i 30p 24p	動画のフレームレート(74)
50 FX FH PS 1080 VGA	動画の記録設定(74)
N	NFC有効

機能を一覧で確認する

表示	意味
	バッテリー容量(19)
	バッテリー残量警告(19)
	フラッシュ充電表示(36)
ON	AF補助光(89)
OFF	手ブレ補正(91) /手ブレ警告
	飛行機モード(94)
	重ね合わせ設定表示(31)
OFF	動画音声記録オフ(91)
	マイク基準レベル 低(91)
	風音低減(91)
VIEW	設定効果反映Off(92)
DATE	日付書き込み(81)
FULL ERROR	管理ファイルフル警告/管理ファイルエラー警告
	温度上昇警告
S C D	スマートズーム/全画素超解像ズーム/デジタルズーム(34)
	スポット測光サークル(89)
C:32:00	自己診断表示
	水準器(39)

表示	意味
MP4 XAVC S AVCHD	ビューモード(95)
100-0003	フォルダー番号–ファイル番号
XAVC S **AVCHD** **MP4**	動画の記録方式(74)
	プロテクト(95)
DPOF	DPOF(プリント)指定(95)
AUTO	オートフレーミング画像(90)
50 FH FX	同時ビデオ記録(88)

2

表示	意味
S 10 C3 BRK C 0.3EV BRK S 0.3EV BRK WB HI BRK DRO Lo	ドライブモード(64、66)
	測光モード(89)
AUTO SLOW REAR	フラッシュモード(36)/赤目軽減発光(89)
±0.0	調光補正(89)
AF-S AF-C DMF MF	フォーカスモード(53)
AWB -1 0 +1 +2 WB 7500K A5 G5	ホワイトバランス(89)
	フォーカスエリア(54)
D-R OFF DRO AUTO HDR AUTO	DRO/オートHDR(89)
ND AUTO ND ON ND OFF	NDフィルタ(89)
Std. Vivid Ntrl Clear Deep Light Port. Land. Sunset Night Autm B/W Sepia +3 +3 +3	クリエイティブスタイル(58)/コントラスト、彩度、シャープネス
OFF ON ON ON ON	顔検出/スマイルシャッター(90)

表示	意味
Toy Norm Pop Pos Pos Rtro SftH key Part R Part G Part B Part Y HC BW Soft Mid Pntg Mid Rich BW Mini AUTO WtrC Ilus Mid OFF	ピクチャーエフェクト(60)
	スマイル検出感度インジケーター(90)

3

表示	意味
● ロックオンAF	ロックオンAF用ガイド表示(90)
REC 0:12	動画の記録時間(分:秒)
ZOOM	コントロールリングの機能(25)
P*	コントロールホイールの機能(25)
● (●) ( )	フォーカス(29)
1/250	シャッタースピード(48)
F3.5	絞り値(47)
M.M. ±0.0	メータードマニュアル(49)
±0.0	露出補正値(62)
ISO400	ISO感度(63)
✱	AEロック
	シャッタースピードインジケーター(41)

機能を一覧で確認する

表示	意味
	絞りインジケーター(41)
	ヒストグラム(39)
	ピクチャーエフェクトエラー(60)
	オートHDR画像警告(89)
2014-1-1 10:37AM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数

- 表示内容や表示位置は目安であり、実際とは異なる場合があります。

使用できるメモリーカード

以下の一覧を参考にして、使用するメモリーカードを選んでください。静止画撮影、または動画撮影で使用できるメモリーカードを○で表しています。

対応メモリーカード	静止画	動画	本書での表現
メモリースティック XC-HG デュオ™	○	○	メモリースティック PRO デュオ
メモリースティック PRO デュオ	○	○(Mark2のみ)	
メモリースティック PRO-HG デュオ™	○	○	
メモリースティック マイクロ™ (M2)	○	○(Mark2のみ)	メモリースティック マイクロ
SDメモリーカード	○	○(Class 4以上)	SDカード
SDHCメモリーカード	○	○(Class 4以上)	
SDXCメモリーカード	○	○(Class 4以上)	
microSD メモリーカード	○	○(Class 4以上)	microSD メモリーカード
microSDHC メモリーカード	○	○(Class 4以上)	
microSDXC メモリーカード	○	○(Class 4以上)	

- XAVC Sフォーマットで記録する場合は、以下のメモリーカードをお使いください。
  - 64GB以上のSDXCメモリーカード(Class 10以上)
  - 64GB以上のUHS-I対応SDXCメモリーカード
  - メモリースティック XC-HG デュオ
- 記録できる枚数/時間については、104〜105ページをご覧ください。容量ごとの一覧を参考に、メモリーカードの容量を選んでください。
- SDカードはUHS-Iにも対応しています。

ご注意

- すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。ソニー製以外のメモリーカードについては、各メーカーにお問い合わせください。
- メモリースティック マイクロ、microSD メモリーカードを本機でお使いの場合は、必ず専用のアダプターに入れてお使いください。

静止画の記録可能枚数と動画の記録可能時間

記録枚数/時間は、撮影状況および使用するメモリーカードによって異なる場合があります。

静止画

[画像サイズ]：[L:20M] [横縦比]：[3:2]のとき*

（単位：枚）

画質＼容量	本機でフォーマットしたメモリーカード					
	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
スタンダード	295	590	1200	2400	4850	9600
ファイン	170	345	700	1400	2800	5600
エクストラファイン	125	255	520	1000	2050	4150
RAW+JPEG	58	115	235	475	950	1900
RAW	88	175	355	710	1400	2850

* [横縦比]を[3:2]以外に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます（RAW設定時は除く）。

ご注意

- 他機で撮影した画像を再生すると、実際の画像サイズと異なって表示される場合があります。

動画

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルの合計記録時間の目安です。[記録方式]が[XAVC S]と[AVCHD]の数値は、[同時ビデオ記録]を[切]で使用したときの数値です。

本機でフォーマットしたメモリーカード

容量 / 記録方式 サイズ	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
XAVC S 60p 50M	–	–	–	–	–	2時間 35分
XAVC S 30p 50M	–	–	–	–	–	2時間 35分
XAVC S 24p 50M	–	–	–	–	–	2時間 35分
XAVC S 120p 50M	–	–	–	–	–	2時間 35分
AVCHD 60i 24M(FX)	10分	20分	40分	1時間 30分	3時間	6時間
AVCHD 60i 17M(FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間 5分	8時間 15分
AVCHD 60p 28M(PS)	9分	15分	35分	1時間 15分	2時間 30分	5時間 5分
AVCHD 24p 24M(FX)	10分	20分	40分	1時間 30分	3時間	6時間
AVCHD 24p 17M(FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間 5分	8時間 15分
MP4 1440×1080 12M	15分	40分	1時間 20分	2時間 45分	5時間 30分	11時間 5分
MP4 VGA 3M	1時間 10分	2時間 25分	4時間 55分	9時間 55分	20時間	40時間 10分

- 連続撮影可能時間は1回の撮影で約29分です(商品仕様による制限)。また、記録方式の設定をMP4(12M)にした場合、連続で撮影できる時間は約15分です(ファイルサイズ2GBによる制限)。

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR（Variable Bit-Rate）方式を採用しているため記録時間が変動します。
  動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。
  また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

❶ 以下の項目をチェックする。また、「ヘルプガイド（HTML）」も参照し、本機を点検する。
モニターに「C/ E ：□□：□□」のような表示が出たときは、「ヘルプガイド」をご覧ください。

❷ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

❸ 設定リセットをする（97ページ）。

❹ サイバーショットオフィシャルWEBサイトで確認する。
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

❺ 相談窓口に電話で問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの向きを確認し、バッテリー取りはずしつまみがロックするまで挿入してください（17ページ）。

電源が入らない。

- 本機にバッテリーを取り付けた後、電源が入るまでに時間がかかることがあります。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください（17ページ）。
- バッテリーは使わなくても自然放電で少しずつ消耗します。充電をしてからお使いください。
- ソニー製純正のNP-BX1タイプのバッテリーかご確認ください。

電源が切れる。

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために、自動的に電源が切れることがあります。この場合は、電源が切れる前にモニターにメッセージが表示されます(5ページ)。
- 操作しない状態が一定時間続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。

- 温度が極端に高い、または低いところで使用しているときの現象です。
- 残量表示と実際のズレが生じています。バッテリーを一度使い切ってから充電すると正しい表示に戻ります。ご使用状況によっては、表示にズレが生じることがあります。
- 使用回数や経年変化により、バッテリー容量は低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、バッテリーの寿命です。新しいものをお買い上げください。

バッテリー充電中、本機の充電ランプが点滅する。

- NP-BX1タイプのバッテリーかご確認ください。
- バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを本機に入れてください。
- 1年以上使用していないバッテリーは劣化の可能性があります。
- 充電に適した温度範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。
- 温度が極端に高い、または低いところで充電しているときの現象です。バッテリーの充電は周囲温度が10℃～30℃の環境で行ってください。

カメラを振ると、音がする。

- 電源が入っていない状態で、カメラを振ると音がする場合がありますが、故障ではありません。

撮影

撮影できない。

- メモリーカードの空き容量を確認してください(104,105ページ)。いっぱいのときは、下記のいずれかを行ってください。
  – 不要な画像を削除してください(80ページ)。
  – メモリーカードを交換してください。
- フラッシュ充電中は撮影できません。
- 動画撮影に使用できるメモリーカードは、103ページをご覧ください。
- [デモモード]を[切]にしてください(96ページ)。
- セルフタイマーになっています。

被写体の明るさが変わるとき、「カタッ」という音がする。

- レンズ内のNDフィルタが動作するとき、画像の乱れや音が発生しますが、故障ではありません。

再生

再生できない。

- メモリーカードが奥まで挿入されているか確認してください。
- パソコンでフォルダー/ファイルの名前を変更したためです。
- パソコンで画像を加工したファイルや他機で撮影した画像は、本機での再生は保証いたしません。
- 本機がパソコンにUSB接続されています。USB接続を終了してください。
- パソコン内の画像を本機で再生するにはPlayMemories Homeをご使用ください。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温、低温、または多湿になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

持ち運びについて

ズボンやスカートの後ろポケットに本機を入れたまま、椅子などに座らないでください。故障や破損の原因になります。

お手入れについて

レンズやフラッシュ発光部をきれいにする

レンズやフラッシュ発光部に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにしてください。

表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下のことは行わないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類の使用
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

モニターのお手入れ

- 手の脂、ハンドクリームなどが付いたままにするとコーティングが剥がれやすくなりますので、早めに拭き取ってください。
- ティッシュペーパーなどで強く拭くとコーティングに傷がつくことがあります。
- モニターに指紋やゴミが付いて汚れたときは、表面のごみなどをやさしく取り除いてから、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ℃～40 ℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れて、電源を切ったまま24時間以上放置する。

バッテリーについて

バッテリーの充電について

周囲の温度が10℃ ～ 30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影、ズーム撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2 ～ 3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。
- バッテリーの端子部が汚れると、電源が入らなかったり、充電ができないなどの症状が出る場合があります。このような場合は柔らかい布や綿棒などで軽く拭いて汚れを落としてください。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機を湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、スライドショー（95ページ）を再生して、電源が切れるまでそのままにしてください。
- 本機から取り出したバッテリーは、接点汚れ、ショートなどを防止するため、携帯、保管時は必ずポリ袋などに入れて金属から離してください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをお買い上げください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境によってバッテリーごとに異なります。

Eye-Fiカードについて

Eye-Fiカードは一部の国、または地域で販売しています。

- Eye-Fiカードに関するお問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国、または地域のみで使用が認められています。使用する国、または地域の法律に従ってお使いください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"故障かな？と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときは相談窓口にご相談ください（裏表紙）。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この製品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後5年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、相談窓口にご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、モニターを見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や、メモリーカードなどを飲み込むおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

つづき

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュ、AF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーやレンズを通して、太陽や強い光を見ない

- 視力障害や失明の原因となります。

長時間、同じ持ち方で使用しない。

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合。
- 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合。

ワイヤレス機能ご使用上の注意

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

航空機内ではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止する

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を指・手袋などで覆ったまま発光しない。また、発光後もしばらくは発光部に手を触れないでください。やけど、発煙、故障の原因となります。

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。

レンズやモニターに衝撃を与えない

レンズやモニターはガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

つづき

⚠注意 火災 感電 下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。

指示

お願い

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ち下さい。

Li-ion
リチウムイオン電池

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、
一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照して下さい。

主な仕様

本体

[システム]

撮像素子 : 13.2 mm×8.8 mm(1.0型)
Exmor R™ CMOSセンサー

総画素数 : 約2090万画素

カメラ有効画素数 : 約2010万画素

レンズ :
ZEISS バリオ・ゾナーT＊
2.9倍ズームレンズ
f=8.8 mm ～25.7 mm
(24 mm ～ 70 mm(35 mmフィルム換算値))、F1.8 (W) ～ F2.8 (T)
動画撮影時(16 : 9) :
25.5 mm ～ 74 mm[*1]
動画撮影時(4 : 3) :
31 mm ～ 90 mm[*1]
*1 [手ブレ補正]が[スタンダード]のとき

手ブレ補正 : 光学式

記録方式 :
静止画記録方式 :
JPEG(DCF、Exif、MPF Baseline)準拠、RAW(ソニーARW 2.3フォーマット)、DPOF対応
動画記録方式(XAVC S方式) :
MPEG-4 AVC/H.264 XAVC S ver.1.0規格準拠
映像 : MPEG-4 AVC/H.264
音声 : リニアPCM 2ch(48kHz 16bit)
動画記録方式(AVCHD方式) :
AVCHD規格 Ver.2.0準拠
映像 : MPEG-4 AVC/H.264
音声 : Dolby Digital 2ch
ドルビーデジタルステレオクリエーター搭載
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式(MP4方式) :
映像 : MPEG-4 AVC/H.264
音声 : MPEG-4 AAC-LC 2ch

記録メディア :
メモリースティック PRO デュオ、メモリースティック マイクロ、SDカード、microSD メモリーカード

フラッシュ : 撮影範囲(ISO感度(推奨露光指数)がオートのとき)
約0.4 m～約10.2 m (W)/
約0.4 m～約6.5 m (T)

[入出力端子]

HDMI端子 : HDMIマイクロ端子

マルチ/マイクロUSB端子[*] : USB通信

USB通信 : Hi-Speed USB(USB 2.0)

* この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

[ファインダー]

形式 : 電子式ビューファインダー(有機EL)

総ドット数 : 1 440 000ドット

視野率 : 100%

倍率 : 約0.59倍(35mm判換算、50 mmレンズ、無限遠、視度－1 m^{-1}時)

アイポイント : 最終光学面から約20 mm、接眼枠から約19.2 mm(視度－1 m^{-1}時)

視度調整 : －4.0 m^{-1}～＋3.0 m^{-1}

[モニター]

液晶モニター :
7.5 cm(3.0型)、TFT駆動

総ドット数 : 1 228 800ドット

［電源・その他］

電源 : リチャージャブルバッテリーパック
NP-BX1、3.6 V
ACアダプター AC-UB10C/UB10D、
5 V

消費電力 :
約1.7 W（モニターで撮影時）
約2.3 W（ファインダーで撮影時）

動作温度 : 0 ℃～40 ℃

保存温度 : −20 ℃～+60 ℃

外形寸法（CIPA準拠）（約）：
101.6 mm×58.1 mm×41.0 mm
（幅×高さ×奥行き）

本体質量（CIPA準拠）（約）：
290 g（バッテリーNP-BX1、
メモリースティック PRO デュオを含
む）

マイクロホン : ステレオ

スピーカー : モノラル

Exif Print : 対応

PRINT Image Matching III : 対応

［ワイヤレスLAN］

対応規格 : IEEE 802.11b/g/n

使用周波数帯 : 2.4GHz帯

セキュリティー : WEP/WPA-PSK/
WPA2-PSK

接続方式 : WPS（Wi-Fi Protected Setup）
/マニュアル

アクセス方式 : インフラストラクチャーモード

NFC : NFCフォーラム Type 3 Tag準拠

Model No. WW808161

ACアダプター AC-UB10C/UB10D

定格入力 : AC 100 V～240 V、
50 Hz/60 Hz、70 mA

定格出力 : DC 5 V、0.5 A

リチャージャブルバッテリーパックNP-BX1

使用電池 : リチウムイオン電池

最大電圧 : DC 4.2 V

公称電圧 : DC 3.6 V

容量 : 4.5 Wh（1 240 mAh）

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

商標について

- メモリースティックおよび はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- XAVC Sおよび XAVC S はソニー株式会社の登録商標です。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AVCHD ProgressiveおよびAVCHD Progressiveロゴは、ソニー株式会社とパナソニック株式会社の商標です。
- Dolby、ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iOSは、シスコの登録商標または商標です。
- iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Android、Google PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- Wi-Fi、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi PROTECTED SET-UPはWi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- Felicaプラットフォームマークは、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- AOSSは、株式会社バッファローの商標です。
- DLNAおよびDLNA CERTIFIEDはDigital Living Network Allianceの商標です。
- Facebook、"f"ロゴはFacebook, Inc.の商標または登録商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Eye-FiはEye-Fi, Inc.の商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していない場合があります。

LITHIUM ION X TYPE

AVCHD Progressive

索引

ア行

カ行

サ行

その他

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

記号・数字順

サイバーショットの最新サポート情報
（製品に関する Q&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカードなど）
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/support/

ソフトウェアのサポート情報
http://www.sony.co.jp/support-disoft/

サイバーショットオフィシャル WEB サイト
http://www.sony.jp/cyber-shot/

サイバーショットの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。
英語の取扱説明書のダウンロードもできます。
(English manual download service is available.)

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.jp/support/

使い方相談窓口	**修理相談窓口**
フリーダイヤル ・・・・・・・ **0120-333-020**	フリーダイヤル ・・・・・・・ **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話 ・・・・・・・ **050-3754-9577**	携帯電話・PHS・一部のIP電話 ・・・・・・・ **050-3754-9599** ※ 取扱説明書等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通）**0120-333-389**

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「401」+「#」（本機や付属品）
「404」+「#」（ソフトウェアPlayMemories Home）
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 **東京都港区港南1-7-1**
http://www.sony.co.jp/

4539038010